2000年度

講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
近代体育・スポーツ史		通　期	4単位	高　橋　ひ　と　み

［講義概要・学習目標］

現代社会において重要な生活文化として取り入れられているスポーツの歴史を、政治や経済・社会環境との関連からみていく。

特に、ルネッサンス以後の「近代スポーツ」を中心に、それぞれの時代や国において「スポーツ」が果たした多面的な役割についてみていき、今後、様々な様相を呈すると予想される「体育・スポーツ」の国際的動向を展望する上での基礎的な知識を得ることを目標とする。

［講義計画］

前期：ビデオを中心に古代・中世・近世の概要をつかむ
1. 古代の体育・スポーツ
　エジプト・ギリシャ・ローマ
2. 中世の体育・スポーツ
3. ルネッサンス時代の体育・スポーツ

後期：4. 近代の体育・スポーツ
①ドイツ
②イギリス
③スウェーデン
④フランス
⑤アメリカ

［成績評価の方法］

定期試験およびビデオ鑑賞のコメントなどにより評価する。

［教科書］

高橋ひとみ（編著）　「近代体育・スポーツ史」　西日本法規出版

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
スポーツ社会学		通　期	4 単位	長谷川　修一郎

［講義概要・学習目標］

日本では、先の冬季長野オリンピックに続いて国際サッカー連盟が２００２年の第１７回ワールドカップをこれまでに例のないアジア地域から２国間にまたがる日韓共催を決定した。また、大阪市では２００８年のオリンピック招致運動を展開している。今やオリンピックやワールドカップに代表されるビックなチャンピオンスポーツ大会が目白押しである。また、余暇時間の増大と高齢化社会に伴って、一般市民の健康や楽しみを目指したスポーツの社会的ニーズが高まり、日本レクリエーション協会が中心になってレクリエーションスポーツの普及を行っている。また、障害者スポーツでは冬季パラリンピックが開催され発展していることは多くの事実として確認される。一方、スポーツの高度化、大衆化の発展はプラスの機能だけでなくマイナスの機能も生じさせている。そこで、本講義では、スポーツがももたらす功と罪を点検しながらスポーツと社会の関係をともに考えたい。

［講義計画］

〈前期〉
１．序論
２．スポーツ社会学
３．スポーツの社会学的理解
４．スポーツと文化
５．スポーツの社会システム
６．スポーツと組織
　日本体育協会と障害者スポーツ協会
７．スポーツ競技会
　国体と身障者スポーツ大会
８．日本的スポーツ組織の歴史的、社会的性格
９．生涯スポーツとコミュニテイースポーツ

〈後期〉
８．スポーツと政治
９．スポーツと経済
１０．オリンピックの裏と表
　ワールドカップの裏と表
１２．日本のスポーツ政策
１３．スポーツのコマーシャル
１４．スポーツの社会的問題点
１５．スポーツの大衆化を巡る問題

［成績評価の方法］

前期と後期に数回のクイズを課し、後期最終にテストを行う予定

［教科書］

単元ごとに資料提供

［参考文献］

森川貞夫、佐伯聡夫編著　スポーツ社会学講義　大修館

Andrew　Jennings 著　オリンピックの汚れた貴族
サイエンテイコト社

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
教育・心理学特講（不登校といじめ問題）		後期	２単位	林　陸雄

［講義概要・学習目標］

今日の三大教育問題は、不登校、いじめ、非行といわれている。不登校は９８年に１０万人を越えた、と文部省は報告している。さらに、学級崩壊といった現象も現れ、教育の根幹を大いに揺るがしている。教師も親もお手上げといった状態もみかけられる。

ビデオ等の資料を手がかりに、子どもたちが直面している、不登校、いじめ等の問題について問い直したい。さらに、そのような子ども達とどのように向かい合うのか、その視角と姿勢について検討する。

［講義計画］

1. 子どもたちが直面している諸問題１
2. 子どもたちが直面している諸問題２
3. 子どもたちが直面している諸問題３
4. 不登校とは１
5. 不登校とは２
6. 不登校とは３
7. いじめとは１
8. いじめとは２
9. いじめとは３
10. 発達と成長、その援助の在り方１
11. 発達と成長、その援助の在り方２
12. 発達と成長、その援助の在り方３

［成績評価の方法］

小レポートならびに期末考査の結果を総合して行う。

［参考文献］

授業内で、適宜紹介する。

［教科書］

使用しない

《インテグレーション科目》

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
体育・スポーツ学特講（スポーツと健康）		**通　　期**	４単位	**長谷川　修一郎**

［講義概要・学習目標］ テーマ：２１世紀のスポーツと健康

21世紀を迎え２００２年には、アジアでしかも日韓の２国共同開催という初めてのワールドカップが行われる。また今春には日本でＮＹ・メッツ対シカゴ・カブス戦の公式開幕戦が東京ゾームで行われた。大阪市は、２００８年の大阪オリンピック招致に向けて舞島・夢島を会場にすべく施設建設をはじめている。２０００年を迎えてスポーツのビッグエベントが連続している。一方、「生涯スポーツ」としてレクリエーションスポーツや障害者スポーツの参加者は中高齢者が徐々に増加しているが、青少年のスポーツ参加は減少傾向にあり、体力の低下が顕著である。そこで多様な講師を迎えて２１世紀の体育・スポーツを語ってもらう。

［講義計画］

シラバスについては、第１回目の授業で配布する。

［成績評価の方法］

テーマ毎にクイズ及びレポートを課し、その内容で評価する

［参考文献］

［教科書］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
図書館通論		前期	２単位	志保田　務

［講義概要・学習目標］

図書館、図書館情報学のおおよそについて平易に概説する。まず、図書館は何をするところかを把握し、その果たす役割について考える。そこで情報と図書館の関係、社会と図書館の関係、生涯学習社会について検討する。次に図書館を構成する要素を確かめる。図書館の要素は、図書→資料→情報、館（建物）→図書館システム、図書館員→司書（専門職員）→利用者(住民)の４点に分かれるが、本講義では、利用者（住民）および図書館システムに焦点をおく。そこでは図書館サービスが追究の対象となる。各種の館種のうちここでは公共図書館を中心に論じる。まとめとして「図書館の自由」と図書館経営について論じ、図書館世界の将来、電子図書館やバーチャルライブラリについて検討する。

図書館を構成する要素のうち最も特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。

［講義計画］

1. 図書館とはなにか
2. 図書館の果たす役割
3. 情報の伝達と図書館
4. 社会、生涯学習と図書館
5. 図書館の構成要素
6. 図書館の種類（館種）
7. 公共図書館：理念
8. 公共図書館の歴史と現代
9. 公共図書館の利用者
10. 図書館の自由
11. 図書館経営
12. まとめ

［成績評価の方法］

テスト８０％　レポート　２０％

［教科書］志保田務編著『図書館概論』（樹村房）

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
図書館資料論		後期	２単位	志保田　務

［講義概要・学習目標］

図書館を構成する要素のうち、最も特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。特に資料の電子化に注目する。電子ブック、電子図書館、インターネット等に言及する。

［講義計画］

1. 図書館資料論　　出版史、図書館史
2. 図書館資料の種類
3. 資料の生産と流通
4. 資料の選択
5. 資料選択論
6. 図書館の自由
7. 電子資料、電子情報
8. ネットワーク
9. インターネット
10. 著作権
11. 公貸権
12. まとめ

［成績評価の方法］

テスト８０％　課題　２０％

［教科書］　プリントによる。

［参考文献］

志保田務編著『図書館概論』（樹村房）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
図書及び図書館の歴史		後期	２単位	志保田　務

［講義概要・学習目標］

図書及び図書館に流れた歴史を確かめる。歴史を見るには観点の設定が欠かせない。それぞれの時代の図書、図書館が誰のものであったか、何のために造られたのか。こうした点に留意する。

とくに近代図書館の成立を、図書館の大衆化及び生涯学習施設化の現実をとらえ、掘り下げる。

［講義計画］

1. 文献史、情報史、学習史、出版史、図書館史
2. 古い時代の図書館１　アジア、アフリカ
3. 同　エジプト
4. 同　ギリシア、アレクサンドリア
5. 修道院図書館
6. 大学図書館
7. 人文主義と図書館
8. 宗教改革と図書館
9. 産業化社会と図書館
10. 市民社会と図書館
11. 日本の図書館
12. 同上

［成績評価の方法］

テスト８０％　レポート　２０％

［テキスト］図書館：その本質、歴史、思潮』改訂版（丸善）

［参考文献］

＜９７～９９生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
児童サービス論		前　期	２単位	清　水　昭　治

［講義概要・学習目標］

公共図書館では、普通、いわゆる一般用と子供用とに部屋又はコーナーを分けて、本をならべています。後者は、大体、中学生までを対象にし、絵本から、小学生、中学生までの中位い子供用の本をそろえています。この講義では、主に、公共図書館の児童サービスを中心として、学校図書館、家庭や地域の文庫活動なども対象にし、又、大人と児童との中間地帯の　いわゆる　ヤングアダルトと呼ばれる中学生や高校生などの図書館とのかかわりも考えます。生涯教育が叫ばれる中で、図書館の役割は、今後、ますます増大します。その時、図書館利用が習慣化されることは大切です。その習慣化の第一歩が児童サービスです。

［講義計画］

講義と共に、具体的に、実際に、多彩に出版されている子供の本を紹介しながら、又、「読みきかせ」などを通じて、子供の本を楽しみながら、講義をすすめます。

又、スライドなどを利用しながら、具体的な子供の図書館の姿を学びたいと思います。

［成績評価の方法］

レポート、又は、学年末試験に加えて、出席状況や平常成績とで、総合評価します。

［教科書］

［参考文献］

参考文献は、講義の中で、お知らせしますが、まずは、文献よりも実際の図書館の児童室、あるいは、児童コーナーを体験しておいてください。

はじめは、少し、躊躇しますが、一度、体験すれば、一般用の図書館と同じように利用できることと思います。

＜９７～９９生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
専門資料論		前期	２単位	松永　俊男

［講義概要・学習目標］
人文科学、社会科学、自然科学の各分野の学問としての特徴、および各分野の文献の特徴と種類について解説する。

［講義計画］
1．学術文献とはなにか
2．分野の特徴と学術文献
3．学術雑誌の特徴
4．学術文献の歴史
5．雑誌 nature について
6．学術における不正
7．二次資料について
8．百科辞典について

［成績評価の方法］
平常点と最終テストを総合して評価する。

［教科書］

［参考文献］

＜９７～９９生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
生涯学習概論	０１ ０２	前　期 後　期	２単位 ２単位	伊　藤　正　純

［講義概要・学習目標］

１９６０年代以降、ユネスコ等の国際機関で生涯教育・生涯学習の必要性が提唱されてきたのは、先進国では、急速な技術革新および長寿社会によって成人の学習機会が経済的・文化的生活にとって不可欠になってきたからであり、後進国では、学習によって貧困から脱出するためにも、子どもだけでなく大人の学習機会が不可欠だったからである。本講義では、このような国際的動向に加えて、生涯学習の先進国であるスウェーデンでの成人教育の諸制度（特に勤労成人に対する教育休暇制度および学習サークル）を紹介し、それとの対比で文部省が推進している日本の「生涯学習社会」の意義と限界を考えてみたい。なお、日本でも自治体レベルで、旧来の社会教育（図書館・博物館・公民館での活動）を包摂した様々な生涯学習推進事業が展開されているので、その例を２、３紹介するつもりである。

［講義計画］

1．生涯学習とは何か
　ユネスコの生涯教育論、ＯＥＣＤのリカレント教育論
2．生涯学習の国・スウェーデンでの実験
　コミューン成人教育、国民高等学校
　高い成人学生の割合、学生ローン制度
　教育休暇制度、成人教育奨学金制度、学習サークル
3．日本の生涯学習の特異性
　生涯学習振興法と「生涯学習」の実情
　高等教育における生涯学習の推進状況
4．地方自治体の取り組み

［成績評価の方法］

司書および学芸員資格取得科目であるので、出席重視・授業中の感想文重視で評価する。定期試験を実施するかどうかは未定。なお、20分を超えた遅刻は認めない（入室禁止措置をとる）。

［教科書］

使用しない。

［参考文献］

1．黒沢惟昭編『苦悩する先進国の生涯学習』社会評論社
2．赤尾勝己『生涯学習概論』関西大学出版部
3．倉橋史郎・鈴木真理編『生涯学習の基礎』学文社

＜９７～９９生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
図書館サービス論		前　期	2単位	西田文男

［講義概要・学習目標］

利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに、各種サービスの特質を明らかにする。

［講義計画］

1．図書館サービスの概念と意義
2．図書館サービスの計画と評価
3．図書館活動の発展
4．図書館サービスの現状と課題
5．図書館づくりの施策と運動

［成績評価の方法］

定期試験の成績によって評価する。

［参考文献］

その都度指示する。

［教科書］

塩見　昇「図書館サービス論」　教育史料出版会

《インテグレーション科目》

＜９７～９９生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
資料特論		後期	2単位	松永　俊男

［講義概要・学習目標］

行政資料、郷土資料、および視聴覚資料に注目し、それぞれの特徴、収集、利用等について解説する。それぞれの専門の研究者によって講義が行われる。

［講義計画］

1．はじめに
2．行政資料について
3．情報公開制度について
4．公文書館について
5．視聴覚資料について
6．ＣＤ－ＲＯＭの利用
7．郷土資料について
8．まとめ

［成績評価の方法］

講師それぞれの評価（テストまたはレポート）を総合して評価する。

［参考文献］

［教科書］

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
図書館特論		後期	２単位	志保田　務

［講義概要・学習目標］

今日、社会は情報を軸に動いている。この情報化社会の起動システムとして入り込んでいるコンピュータについて、その機能の理解と利用能力の獲得は欠くことができない。こうした社会システム下のコンピュータ運用の基礎的部分の担当者としてシステムアドミニストレーターがある。この科目はまずこの職域に関する技術を管見する。つぎにデータベースは図書館にとって常識化しているので、その扱いについてここで学ぶ。さらに検索の専門家サーチャーへの登竜門となる情報検索基礎能力試験をも目指す。各分野の専門家によるインテグレーション授業とし、大半はA館のコンピュータ演習室を使用する。

この授業の第１回講義までに、次の条件を満たしておくこと。

1　E-MAIL　Addressを取得しておくこと（学内LANのそれでよい）

2　パソコンキーボードの操作、入力ができること。

［講義計画］

1. ガイダンス：インテグレーション計画
2. シスアドとサーチャー（情報検索代行者）
3. データベースとは何か
4. データベース検索学習（一般）
5. データベース検索（化学・薬学）
6. データベース検索（特許）
7. データベース検索実用
8. データベース検索実用（DIALOG）
9. 情報検索と英語
10. 情報基礎能力試験に向けて
11. システムアドミニストレータ試験に向けて

［成績評価の方法］

テスト５０％　課題　３０％

出席　２０％

［教科書］志保田務・平井尊士編著『情報活用』（学芸図書）

［参考文献］

志保田務編著『情報機器論・特論：ﾒﾃﾞｨｱの活用』（第一法規）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
図書館学特講（コンサイスAACR2R）		後期	２単位	志保田　務

［講義概要・学習目標］

洋書目録法について、つっこんだ学習をする。資料目録法の洋書特講にあたるものであり、コンピュータ化する以前の伝統の西洋目録法について理論を学習し、技術を習得する。

［講義計画］

1. 資料組織化
2. 目録原則
3. 目録規則概説
4. AACR
5. AACR２R演習１
6. 同２（記述）
7. 同３
8. 同４
9. 同５（標目）
10. 同６
11. まとめ

［成績評価の方法］

テスト５０％　課題　３０％

出席　２０％

［教科書］

M. ｺﾞｰﾏﾝ著『ｺﾝｻｲｽAACR2』志保田［ほか］訳（日本図書館協会）

E. J. ﾊﾝﾀｰ著『ｺﾝｻｲｽAACR2R：ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ式演習』志保田務［ほか］訳（日本図書館研究会）

［参考文献］

志保田務［ほか］著『資料組織法』第４版（第一法規）

志保田務［ほか］著『NCR入門：プログラム式学習と基礎的分析』学芸図書

＜９７～９９生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
博　物　館　概　論		後期	２単位	種　田　　明

［講義概要・学習目標］

博物館とは何か、その社会的基盤や法的地位、教育的機能などを総合的に講義する。（毎回ＶＴＲを使用する。）日本の博物館の開館数は、１９９７年も約３００館近くに上り、規模やテーマの各種各様の博物館が誕生している。これらの博物館が、研究者のみならず多くの人々に親しまれ活用されるためには、博物館に関する基礎的知識の習得が望まれよう。

博物館法に基づく「学芸員」を志す諸君は、博物館の歴史と現状・博物館における人とのふれ合い（博物館法にいうリクリエーション、社会教育法にいう生涯学習）・博物館のコンセプトや法律などを十分にわきまえ、博物館について楽しみながら学んでほしい。

なお、本学では博物館概論と博物館学各論（４）の２科目６単位を履修し、合格しなければ「博物館実習（３）」の登録はできない。（自由科目としての受講者は、最初に申し出てください。）

［講義計画］

各回４５分「放送大学」のＶＴＲをみて、テーマに関連した講義・解説を行う。新聞・雑誌などからの記事のコピーも交え、博物館の本質について討議できれば、問題の所在が明らかになるであろう。

［成績評価の方法］

博物館見学レポート　２回　（３０％）
試験＜最終講義日＞　（６０％）
出席　（１０％）：欠席５回は受験資格なし

［教科書］

大塚知義『改訂版　博物館学Ｉ』放送大学教育振興会、１９９４年

［参考文献］

講義中に提示する。

＜９７～９９生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
博物館学各論		通　期	4 単位	水　口　　薫

［講義概要・学習目標］

近年ミュージアム・マネージメントという研究活動領域が拡大している。生涯学習の必要性と相まって博物館への関心は高く、博物館でも教育・福祉・援助・環境保護などあらゆることにマネージメント感覚が求められている。

本講義では「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館情報論」を内容とする。

博物館機能の構成要因の一つである博物館経営、博物館資料の収集・保管・展示等についての基礎知識の習得、調査・研究、教育普及活動および情報の意義と活用方法についての理解を図る。適時ビデオ資料を使用する。

［講義計画］

（前期）「博物館経営論」
1　博物館の機能、組織、施設の基本的な考え方
2　ミュージアム・マネージメント、教育普及活動
「博物館資料論」
1　博物館資料の概念、収集、整理、保管、記録化
2　博物館資料の保存、展示（常設展示、企画展示）
（後期）　3　資料調査、研究活動の意義と方法、基礎知識
「博物館情報論」
1　博物館における情報の意義、提供について
2　教育普及、情報、インターネットの活用方法

［成績評価の方法］

出席を兼ねた小テスト（適時）とレポート、定期試験にて総合評価。前・後期とも欠席6回の者は名簿抹消。

［教科書］

大堀　哲・小林達雄・端　信行・諸岡博熊（編）
『ミュージアム・マネージメント　博物館運営の方法と実践』
（東京堂出版　1996年）
加藤有次・椎名仙卓（編）『博物館ハンドブック』
（雄山閣　1993年（3版））

［参考文献］

適時、プリントを配布。
その他、講義の時に提示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
東洋美術史		通期	4単位	林　宏作

[講義概要・学習目標]

美術の範疇はいたって広く、絵画・彫塑・建築・工芸など、凡そ空間ならびに視覚の美を表現する芸術すべてがその範疇に属するものである。

この講義には、先史時代を始め、殷・周・春秋・戦国・秦・漢・南北朝・隋・唐・宋・元・明・清など、時代を縦割にして中国絵画史の継續性を究め、さらにそれぞれの時代を横割して広範な視野から中国絵画の全貌を眺めてみたい。

[講義計画]

①中国絵画の流れ
②中国絵画の特質
③古代の絵画
④唐宋の絵画
⑤画院の画家
⑥元四大家と文人画

[成績評価の方法]

レポートの提出と試験の成績

[参考文献]

傅抱石「中国美術年表」（中華書局）
マイケル・サリバン「中国美術史」（新潮社）
王耀庭「中国絵画のみかた」（二玄社）

[教科書]

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
産業考古学		通期	4単位	並川宏彦

[講義概要・学習目標]

産業考古学は1955年に英国で生まれた新しい学問である。それは産業史や技術史、社会・経済史、地方史など周辺学問との学際的研究で展開され、文献研究だけではなく、産業遺跡・遺物そのものの調査・研究を重視し、それの文化財としての保存・記録を進める。

わが国が欧米の近代技術の導入を通じて産業の近代化にふみ出してから一世紀余りが経ち、この間の産業技術の発達はめざましいものがある。この過程で、当然のことながら生産品の変遷が進み、消えていった品々も多い。

歴史的、技術的、文化的価値のある工場や生産設備、機械器具、製品、図面、文書類など、それぞれの時代を担い、産業技術の発展に貢献した貴重な遺産である産業資料の収集・保存は重要な課題である。

産業考古学がどのような学問か、調査研究の対象と方法、産業遺跡・遺産保存の基準、日本の産業技術の発達などとともに、産業博物館について講義する。

[講義計画]

産業考古学の定義、調査研究の対象と方法、日本の産業考古学、遺跡や遺物の体系的保存、体系的保存のための基準、日本の産業技術の発達、産業考古学と保存運動、企業と産業遺跡・遺物の保存、文化財としての産業遺跡・遺物、日本の産業遺跡・遺物（水力発電所などエネルギー生産の跡、鉄や銅など金属材料生産の跡など）、産業考古学と産業技術史博物館（繊維機械および自動車とその生産技術）、そして近畿の産業博物館（近畿地域の主な産業博物館を取り上げ、その産業や技術の歴史の概要と博物館の展示内容や特徴）を述べる。

[成績評価の方法]

レポートの提出を課す。期末に試験をする。
試験の点数とレポートの評価で成績をつける。

[参考文献]

産業記念物調査研究会　「近畿の産業博物館」　阿吽社

[教科書]

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
科学技術史		通期	4単位	鈴木善次

[講義概要・学習目標]

今日、私たちは科学文明の社会で生活をしている。科学文明は私たちに便利さ、快適さを与えてくれているが、その中心は科学技術である。科学技術とは科学的知識を活用して開発される技術であるので、その母体の源は科学ということになる。
一方で科学技術は環境問題をも生じさせている。そうなると科学が悪いのか、という論も出てくる。
本講義では、科学や科学技術を厂史的に跡づけることによって、それらの本性、特徴などを検討し、今後、私たち人間がそれらとどうつき合うのが望ましいのかなどを学生諸君とともに考えていく。

[講義計画]

1. 科学ということ。
2. 科学の起源　古代科学というもの
3. 近代科学の誕生　ガリレイ、ニュートンらの活動。
4. 科学万能主義
5. 科学技術の誕生　動力技術の変遷。
6. 科学技術の発達と人びとの生活
7. 今日の環境問題と科学技術
8. 望ましい文明、科学文明の再考。

[成績評価の方法]

レポート、期末テストなど総合的に評価する。

[参考文献]

鈴木善次、島崎　『科学技術概論』(建帛社)

[教科書]

なし

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
科学社会学		通期	4単位	後藤邦夫

[講義概要・学習目標]

かつて、科学の研究は少数の研究者の個人的活動によって担われていたが、ある時期から多様な社会システムの活動の所産となった。そのなかで、研究者の集団の性格や行動に注目し、知識社会学の手法による「科学者集団の社会学的研究」が始まった。これが狭義の科学社会学であり、いわゆる知識社会学の系譜に属する。しかし、１９世紀末以来、国家や企業と科学技術との関連が重要になり科学者集団の性格も複雑になってきた。そして、科学技術の多様な社会的側面を扱う広義の科学社会学が成立する。この講義では「科学」と「技術」を一体のものとしてとらえ、ひろく「科学技術の社会的研究」として扱う。このような広義の科学社会学的研究の本格的な展開は、第二次大戦後、とくに１９７０年代以降である。核問題、環境問題等を通じて、科学技術の社会的意味が問われ、「科学的真理」や「技術進歩」に対しても根本的な検討が必要になったからである。それらの現代的トピックも出来るかぎり扱う。

[講義計画]

前期：科学社会学、すなわち科学技術の社会的研究の系譜と方法
１９３０年代のマートン、バナール、マルクーゼ、から今日の社会的構成主義にいたる研究の流れを追いながら、主な論点と方法を講義する。

後期：現代の科学技術の科学社会学的研究
主に、第二次大戦後のさまざまな話題を扱う。

[成績評価の方法]

1）講義した内容についての試験を行う。
2）レポートを課し、その内容をも若干考慮する。

[参考文献]

受講者に対するシラバスのなかで示す。

[教科書]

使用しない。必要に応じてプリント等を配付する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
産業技術論		通期	4単位	並川宏彦

[講義概要・学習目標]

技術は人間の活動＝生産的労働をより効果的に行うために工夫され、つくり出されたものである。それはつくり出した物、道具や機械などに物化しているが、道具や機械そのものではなく、それらによって測られる一つの概念であり、本来きわめて経済的社会的なものである。

人間のみが道具をつくり、それを使って色々な物を生産する。人間の歴史は道具の歴史、物づくりの歴史である。人間の存在が技術を考えていく基盤である。

科学・技術時代といわれる現在の経済社会をよく理解するためには、それを支え、規定する重要な要因の一つである技術の役割を正確に把握する必要がある。

この講義では、人類の起源と技術、生産過程と労働過程、技術の概念、科学の発展、科学と技術の関係、道具から機械へ、機械の概念、工場制度の成立、機械体系からオートメーションへ、戦後日本の技術革新、そして技術発達と現代社会との関わりについて述べる。

[講義計画]

第1章．人間の起源と技術（人間の存在が技術の基盤　人間の属性　物づくりが人間をつくるなど）、第2章．生産過程・労働過程（生産の自然的・社会的側面　労働過程の3要素）、第3章．技術の概念（学説の紹介　技術の定義）、第4章．科学の発展（科学とは　科学と労働　科学のはじまり　科学と技術　理学と工学の発展など）、第5章．技術の発展法則（技術の社会依存性と自律性　発展の根本要因など）、第6章．技術と生産様式（原始時代の技術から資本主義制発生期の技術まで）、第7章．機械と大工業（機械制大工業勃興期の技術　機械の概念　機械体系）、第8章．オートメーション（機械化の発展段階　オートメーションの特質、前提、技術史的意義）、第9章．戦後日本経済と技術革新（技術革新の展開過程　技術貿易　日本技術の特質）、第10章．生産技術と管理技術（近代的管理職能の発展　管理技術の特質など）を講義する。

[成績評価の方法]

レポートの提出を課す。期末に試験をする。
試験の点数とレポートの評価で成績をつける。

[参考文献]

最初の授業の日に、各章ごとの参考文献を示す。

[教科書]

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
工学概論		通期	4単位	並川宏彦

[講義概要・学習目標]

人間の歴史は道具をつくる歴史であり、近代になって、古代以来の理論的遺産と技術的実践が結びつき、科学と技術の融合が進み、工業分野で新たな自然科学の方法がつくられ、工学が生まれた。工学は工業に関する科学である。いままた、技術の融合をいかに活発にするかという課題が経済活性化のキーワードとして注目されている。1970年代半ばのメカトロニクス（機械産業と電気機械産業の融合）にはじまり、80年代のオプトエレクトロニクス（光情報通信産業と電気機械産業の融合）やバイオテクノロジー（化学、食品、医薬産業などの融合）などがその例である。

この講義では、物づくりの重要性、科学と技術の変遷とその融合、工業の発達、工学の形成を述べ、工業技術が物化した製品の一つとして総合産業の日本自動車工業、自動車工学の変遷を取り上げ、自動車のエレクトロニクス化、低燃費・排気ガス対策で変わるエンジンを講ずる。

[講義計画]

Ⅰ．物づくりの重要性と人間の動物界からの分化、技術とは何か　Ⅱ．科学とは、自然科学とは、科学のはじまり　Ⅲ．科学と技術の成果の変遷、科学と技術の融合　Ⅳ．工業とは、機械制生産の成立、道具から機械への転換　Ⅴ．工学とは、工学を学ぶ意義　Ⅵ．工学との成立、工学の体系化、工学の専門分化　Ⅶ．日本における工学の成立　Ⅷ．日本における自動車産業の変遷　Ⅸ．自動車の構成部品の変遷　Ⅹ．自動車材料技術の変遷　ⅩⅠ．カーエレクトロニクス　ⅩⅡ．安全・排出ガス浄化・低燃費技術の変遷　ⅩⅢ．人と社会の調和技術の変遷

[成績評価の方法]

レポートの提出を課す。後期末に試験をする。
試験の点数とレポートの評価で成績をつける。

[参考文献]

(1)中村静治編「現代技術論」有斐閣'73.(2)石谷清幹著「工学概論」コロナ社'79.(3)荒川泓著「近代科学技術の成立」北大図書刊行会'74.(4)日本自動車工業会編「日本自動車産業史」日本自動車工業会'88.

[教科書]

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当・者
博物館学特講 産業遺産研究と博物館		通期	4単位	種田 明

[講義概要・学習目標]

産業遺産(industrial heritage)は、わが国の明治以降現代にいたるまでの"工業化"過程に関するさまざまな情報の宝庫である。いわゆる「世界遺産(world heritage)条約」<UNESCO, 1972年>発効以来、世界遺産として保存・活用される産業遺産の数も少しずつ増えてきている。(わが国の条約比准は1992年.)

産業遺産を博物館として、産業遺産の中に博物館を設立して、あるいは博物館の中に(例えば広域野外博物館の域内に)産業遺産を保存・活用している事例を、日欧を中心に考察する。

[講義計画]

前期：テキストに沿って講義し、解説する。

後期：英文テキスト(配布する)

Michael Stratton & Barrie Trinder,
Book of Industrial England, (B.T. Batsford/English Heritage)
London, 1997 から抜粋;

また、担当者の収集資料(2000年8月)から抜粋したものを分担して読んでもらう。

[成績評価の方法]

前期レポート：日本の産業遺産の調査研究(2000字以上、9月末提出)
後期レポート：ヨーロッパの産業遺産に関する報告(英文)の番訳(邦語2000字程度、9月末配布する/12月提出)

[教科書]

日本産業遺産研究会＋文化庁歴史的建造物調査研究会 編著
『建物の見方・しらべ方 近代産業遺産』 ぎょうせい、1998年

[参考文献]

講義中に指示・紹介する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
日本文化史	01 02	通期 通期	4単位 4単位	横井 清

[講義概要・学習目標]

日本の文化について歴史的に通観する。総じては、日本文化史上の重要な事象について、使用教科書の記述によりながら、初歩的・基礎的な「知識」を身に付けるようにいざないたい。その上で、本学が教育理念の根本におく「国際的な視野」に立って日本文化を見直して行くための手掛かりを得させたい。

[講義計画]

使用教科書の章編成にしたがい、「原始」「古代」「中世」(前期)「近世」「近代」(後期)の見込みに立って、順次解説を進めたい。

[成績評価の方法]

学年末の筆記試験による。

[教科書]

家永三郎著『日本文化史(第二版)』(岩波新書)毎時間必携。

[参考文献]

必要に応じて随時授業の中で紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
比較芸術学		通　期	4 単位	林（リン）　宏作（コウサク）

[講義概要・学習目標]

すべての観察は比較ということの上に成り立っている。比較するということは、その座標として、比較が行なわれるための一定のカテゴリを前提とする。この講義では、エジプト・ギリシア・インド・東亜などにおける彫塑の特徴を概述し、比較芸術学の方法を明らかにしたい。

[講義計画]

1. 比較芸術学の課題と研究領域
2. エジプトの彫刻
3. ギリシアの彫刻
4. ローマの彫刻
5. 仏像の起源
6. 彫刻の素材

[成績評価の方法]

レポートの提出と試験の成績

[教科書]

[参考文献]

「近代芸術学の成立と課題」（吉岡健二郎著、創文社）
「芸術の世界」（井島勉編、創文社）
「原色日本の美術」（小学館）
「中国美術全集」彫塑編（人民美術出版社）

「基礎演習」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	頁
01	荒木　英一	データで見る日本経済	168
02	伊代田光彦	経済学の基礎	168
03	梅本　哲世	現代社会と経済	169
04	桂　昭政	グローバル市場経済について	169
05	木村　二郎	日本経済入門	170
06	厳　善平	アジア諸国の社会と経済	170
07	庄谷　邦幸	日本経済の動向	171
08	鈴木　健	経済学的な物の見方・考え方とはどのようなものか	171
09	津田　和夫	わが国経済の研究・特に金融制度と金融改革の研究	172
10	西川　憲二	日本経済の今後	172
11	野田　知彦	経済学の基礎	173
12	濵田　博男	日本経済と産業・企業	173
13	蕗谷　硯児	経済学の基礎を学習すること	174
14	前田　治郎	時事問題の研究	174
15	前田　徹生	現代社会の諸問題	175
16	松尾　純	経済学的思考方法を身につけよう	175
17	モグベル ザファル	アジア経済の展望	176
18	望月　和彦	「世の中は左様然らば御尤もさうでござるかしかと存ぜぬ」をぶっ飛ばす	176
19	矢根　眞二	人生ゲームの道具箱	177
20	吉見　研次	法と経済学	177
21	林　錫璋	医療過誤問題の研究	178

＜００Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	01	通期	4単位	荒木英一

［演習概要・学習目標］

前期は、テキストの輪読などを通じて、日本経済のおおまかな様子と経済学の基本的な概念や考え方を学ぶ。後期は、いろいろな経済記事を輪読しながら疑問点をあげて一緒に考えていくことにする。余裕があれば、各自が興味を持つ記事について報告してもらう。

［演習計画］

前期：　テキストの輪読と講義

後期：　適当な経済記事の輪読（追ってコピーを配布）
各自の簡単な報告

［成績評価の方法］

出席を重視する。

［教科書］

適宜に指定する。

［参考文献］

＜００Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	０２	通　期	４単位	伊代田　光　彦

［演習概要・学習目標］

この演習は、これから経済学を学習するに当たって必要な次の３点について行う。

第１に、経済学学習に欠かすことのできない心構えについて学ぶ。経済学という学問の性格を正しく認識することが学習の出発点である。経済学の特徴を正しく把握すれば、学習に当たって必要な心構えが得られる。

第２に、コンピューターは現代社会では必須と見なされるが、これに対する心理的障壁を取り除き、その基本的操作・利用に慣れることを目的とする。コンピューターの操作・利用は、誰もが容易にできかつ便利なものであることがわかる。

第３に、担当者の専門分野であるマクロ経済学の骨格を学習することを目標とする。所得、雇用、物価水準などが、どのような意味をもつものであり、どのようにして決まるかについて学ぶ。これらを学ぶことを通じて、「経済学がわれわれの日常生活と密接に関連するものである」ことを理解してほしい。

［演習計画］

＜前期＞　１．経済学とはどういう学問か（サムエルソン『経済学』の中から教材はコピー）
２．コンピューター実習（ワープロ、表計算、グラフ、Ｅメール、インターネット等について、各自の到達度をみながらゆっくりと進める）

＜後期＞　テキスト「第２部　マクロ経済学」の６－１３章について学習をする。報告者のグループを決めて学習を進めていくが、各自が自ら読んで学習をしなければこの演習の目的は達成されない。

［成績評価の方法］

出席と平素の努力を重視した評価を行う。
（出席、平素のレポート、発表、年度末レポート）

［教科書］

稲別正晴・伊代田光彦・植田政孝（共著）『新版現代経済学の基礎（全訂）』（法律文化社、1998年）

［参考文献］

＜００Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基　礎　演　習	０３	通　期	４単位	梅　本　哲　世

［演習概要・学習目標］

経済学を学ぶ際に必要なのは、現実の経済事象にたいする生き生きとした関心である。今、日本と世界でどのような経済問題が起こっており、それをどのように理解し、どのようにしたら解決できるのか、という問題意識を常に持ち続けることが大切である。

この演習では以上のような趣旨を踏まえて、現在の日本経済で生起している様々な経済問題について具体的に学習していく。たとえば、世界経済と多国籍企業、家計、消費者問題、情報化、廃棄物問題などについて、テキストにそって一緒に考えていきたい。

この演習の目標は、いま新聞やテレビで報道されている経済問題について一応の理解ができる程度の基礎知識の習得である。授業は基本的にテキストを輪読する形で行うが、適時ビデオ教材も使用して具体的なイメージで経済を考えることができるようにしたい。

［演習計画］

【前期】
1. 資本主義社会成立史
2. 高度成長から「経済大国」へ
3. 世界経済から地球経済へ
4. 現代世界経済のしくみ
5. 租税と国家財政
6. 地方分権と地方財政
7. 家計、賃金、労働

【後期】
1. 大競争時代の流通と消費者問題
2. 成熟社会のもとでの高齢者問題
3. 食品環境と食料危機
4. 廃棄物とリサイクル
5. コンピュータと社会生活
6. 新しい時代の到来と自動車
7. エネルギー問題と地球環境危機

［成績評価の方法］

出席を重視し、演習での態度（報告・発言など）およびレポートなどにより総合的に評価する。

［教科書］

佐々木佳代編著『地球時代の経済学』（ミネルヴァ書房）

［参考文献］

演習中に適時指示する。

＜００Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	０４	通　期	４単位	桂　昭　政

［演習概要・学習目標］

我々の経済社会は今大きな変革期に直面している。それはベルリンの壁崩壊以来加速的にこれまでの市場と政府がミックスした経済システムから、市場を中心とした経済システムに移行しつつあり、将来的にもそのような方向と進んでいくであろうと予想されるからである。我々の身の回りで規制緩和、金融ビッグバン、あるいは大きな政府から小さな政府へといった動きは市場を中心とした経済システムへの動きの具体的な反映である。簡単に言えば政府に保護された社会から自己責任が要求される社会に変わりつつあるのである。この基礎ゼミではこれからの経済学の勉強の前提として我々の経済社会が大きくカーブを切ろうとしていることを熟知してもらい、今後の経済学の勉強にインセンティブ、ないし方向性を与えることができればと思っている。

［演習計画］

演習概要でふれたように我々の経済社会は今後、過酷なグローバルな市場経済社会に突き進んでいかざるを得ないが、まずその点について教科書で認識を深めるのがこの一年の目標である。さらにこれから経済学を勉強していく上で現実の経済の実態を知っておくことも不可欠であるのでパソコンを利用してグラフを作成し経済社会の現状の理解を深めていこうと思う。

［成績評価の方法］

出席、報告、レポートなどの総合評価

［教科書］

日本経済新聞社編『新資本主義が来た－２１世紀勝者の条件－』（日本経済新聞社）
なお、追加が必要な場合は適宜指示する。

［参考文献］

適宜指示する。

＜００Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	０５	通期	４単位	木村二郎

［演習概要・学習目標］

2000年を迎えて日本経済は不良債権問題を払拭して長期不況から脱出できるのか。また、グローバリゼーションの流れの中における、産業と金融の大再編の行方はどうなるのか。激動する世界経済の中における現代の日本経済が直面している問題の本質は何か、その問題はどのような歴史の流れの中から発生し、今後どうなっていくのか。私たちを取り巻く経済の情況を自分の頭脳でキャッチして、その問題点を理解し、解決の方向を自分なりに考えることが、自立した自由人の基本的条件であるといえよう。

この基礎演習では、第1に、テキストを輪読しながら、日本経済がかかえるさまざまな現実の具体的な問題を学習する。交替にレジメ作成・報告を行い、それに基づいて全体で討論して認識を深める。時に応じて、テキストのテーマに沿った時事問題の報告も織り込む予定である。この輪読を通じて、大学で経済学を学んでいく基本的方法を身につけ、経済を研究することの面白さを理解することを目標にする。

第2に、カレントなテーマを選択して、ディベート(討論)を班対抗で行う。このディベートでは、相手の意見に対抗して自分の見解を述べる訓練を通じて、討論する能力を養うと共に、さまざまな問題に対する認識を深めることを目標にする。

［演習計画］

時事問題報告、テキスト各章（景気・経済成長・財政・金融改革・経済摩擦・産業構造・地球環境など）の輪読、ディベートを前後期を通じて行う。なお、夏休みには日本経済に関するレポートを提出するのが課題である。

［成績評価の方法］

出席は前提。演習に対する取り組みの積極性とレポートやテストなどを総合的に評価する。

［教科書］

日本経済新聞社編『ゼミナール日本経済入門』(2000年版)日本経済新聞社

［参考文献］

＜００Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	０６	通　期	４単位	厳　善平

［演習概要・学習目標］

【２０００年度・経済学部基礎演習・講義要項】

1. 概要

経済学とはどういう学問か。経済学部志望の受験生に聞くと、「モノやカネの動きを説明するもの」との答えが多かった。実際に、経済学の内容は非常に豊富で、その扱う領域も遥かに幅広い。

この基礎演習の目的は、新聞やテレビで取り上げられるさまざまな社会・経済問題を理解するための最小必要限の経済学の知識を習得することである。そのために、ホットな社会・経済問題について新聞・雑誌などを予め調べてもらい、グループ別の討論会・弁論会を学生の司会で行う予定である。

ただし、担任教員の専門領域との関係を考慮し、本演習で取り上げるテーマは、日本を含む東アジア諸国の社会・経済事情に関するものが多くなると予想される。

［演習計画］

［成績評価の方法］

必修であるため、出席状況にも配点する。出席3割＋発表の準備3割＋テスト4割

［参考文献］

［教科書］

随時指示する

＜００Ｅ生対象＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
基礎演習	０７	通期	４単位	庄谷邦幸

［演習概要・学習目標］

日本経済の発展の軌跡，人口，国土・国家，食生活と第1次産業，第2次産業と空洞化，サービス経済化，労働問題，金融・資本市場，国民生活など経済の諸側面について学習する。それと同時に，日々の新聞を取りあげ，解説・討論したい。

［演習計画］

［成績評価の方法］

レポートを時々課す。また出席を重視する。

［参考文献］

［教科書］

宮崎勇著『日本経済図説 第2版』（岩波新書）

＜００Ｅ生対象＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
基礎演習	０８	通期	４単位	鈴木健

［演習概要・学習目標］

わたしたちの周りでは日々大量の政治・経済現象が生起しており、好むと好まざるとにかかわらず、それらの諸現象について判断を求められる。けれども、日々生起する政治・経済現象について、それを根本的にとらえるという作業は必ずしも簡単なことではない。

この基礎演習は、経済学を初めて学ぶ一回生が、日本と世界で生起する政治・経済現象に深い関心をもち、諸現象のつながりとその「真相」を追い求めようとする探求心を身につけるために必要な訓練を行う場である。現代の日本と世界の政治・経済生活を考えるうえで参考となる書物をとりあげ、それを素材として報告し、報告にもとづいて討論し、報告者の見解と他の演習参加者との見解の相違を明らかにしつつ、事柄の「真相」に迫る思考の訓練を行う。

［演習計画］

・第１回、演習の進め方と年間計画の解説
・第２回、演習における報告の仕方①
・第３回、演習における報告の仕方②
・第４回～第26回　演習参加者による報告と討論

［成績評価の方法］

次の三つの評価の総合によって決定する。
・第一、出席日数。２／３以上の出席が義務。
・第二、報告を担当するさいの準備の中身、報告の内容、討論への参加の仕方。
・第三、他の報告者の報告を素材とする討論への参加の仕方。

［参考文献］

［教科書］

・宇沢弘文『地球温暖化を考える』（岩波新書）

＜００Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	０９	通　期	４単位	津田　和夫

［演習概要・学習目標］

テーマ：我が国経済の研究、特に金融制度と金融改革の研究

日本経済の現況を見つめながら、まず経済の基本や歴史を学ぶ。
そして、その過程で日常生活において遭遇する様々な経済問題について疑問点や問題点を解きほぐし、理解を深める訓練をする。
特に我が国の金融制度と金融ﾋﾞｯｸﾞﾊﾞﾝ、財政問題などは重点的に扱う。

夏休みに自分の関心あるテーマを絞り、短い報告を書いてもらい、それに従って報告をしてもらう。自分の意見の提示、活発な討論は高く評価する。

［演習計画］

「前期」
教科書を読む。 新聞記事などにより時事問題も研究する。

「後期」
各自のﾃｰﾏの発表、討論を行う。

［成績評価の方法］

出席状況　　討論参加状況　　期末試験

［参考文献］

改訂「現代銀行論入門」（経済法令研究会）津田和夫著　１９９９年版

「教科書」

ﾋﾞｼﾞｭｱﾙ　日本経済の基本 小峰隆夫編 日本経済新聞社　1999年 第２版

＜００Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	１０	通　期	４単位	西川憲二

［演習概要・学習目標］

経済の現状を学び、経済の発展を目指す。
本年度は、経済の基本的な知識を習得し、経済学の歴史を学ぶ。
日本経済の現状を見つめながら、まず経済の基本や歴史を学ぶ。
そして、その過程で日常生活において遭遇する様々な経済問題について疑問点や問題点を解きほぐし、理解を深める訓練をする。
特に我が国の金融制度と金融ﾋﾞｯｸﾞﾊﾞﾝ、財政問題などは重点的に扱う。
夏休みに自分の関心あるテーマを絞り、短い報告を書いてもらい、それに従って報告をしてもらう。自分の意見の提示、活発な討論は高く評価する。

［演習計画］

４月と５月は、授業でパソコン操作の練習。
その後、テキストを用いて議論してゆく。

［成績評価の方法］

発表と出席

［参考文献］

［教科書］

ﾀｶﾞｰﾄ・ﾏｰﾌｨｰ著　『日本経済の本当の話』（上・下巻）
毎日新聞社

＜００Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	１１	通期	４単位	野田知彦

［演習概要・学習目標］

この基礎演習の目的は、経済学の基本的な考え方を身につけることである。具体的な題材としては、進学、就職、賃金、雇用、昇進、結婚などの生活に関わる身近な問題をとりあげる。これらの問題を経済学的に分析すればどのようなことがわかるのか、ということを経済学の基礎的な考え方から説き起こしていく。また、後期には、学生諸君自身の問題意識にもとづいてレポートを作成してもらうことにする。

［演習計画］

授業中に指示する。

［成績評価の方法］

報告、レポート

［教科書］

「ライフサイクルの経済学」　橘木俊詔　筑摩新書

［参考文献］

＜００Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	１２	通　期	４単位	濵　田　博　男

［演習概要・学習目標］

現代資本主義社会の重要な経済単位である企業（＝会社）の仕組みや活動の変遷を勉強することをつうじて、現実の日本経済や世界経済の動きについての理解と関心を深めるようにしたいと考えています。

ゼミナールでは、テキストの各章を各自分担して報告・討論して貰います。そのさい報告者には簡単なレジュメ（内容の要点と意見をまとめたもの）を用意して貰います。

そのほか、そのときどきの新聞記事などを材料にして、重要と思われる問題について解説することも予定しています。

［演習計画］

（前期）

１．プロローグ
２．戦後改革－日本的経営のみなもと－
３．混乱から復興へ
４．産業政策の果たした役割
５．財閥から企業集団へ
６．間接金融方式の定着
７．産業構造の変化とリストラクチャリング

（後期）

８．技術革新
９．中小企業のダイナミズム
１０．日本的労使関係の成立
１１．マーケティングの導入と流通革新
１２．経営理念
１３．戦後の総決算としての円高構造調整
１４．グローバル時代へ

［成績評価の方法］

出席状況ならびにゼミナールでの報告・討論への積極的な姿勢を重視します
年２回のテストの成績とあわせて総合的に評価します

［教科書］

下川浩一（著）『日本の企業発展史』（講談社／現代新書）

［参考文献］

＜００Ｅ生対象＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
基礎演習	13	通期	4単位	蕗谷硯児

[演習概要・学習目標]

経済学の基礎を身につけることを学習目標として以下の順序で演習を行なう。

1. 経済の基礎概念について
2. 市場経済と規制
3. 計画経済の失敗
4. 金融と経済
5. 株式会社制度と経済
6. 市場経済の問題点
7. 大不況とは？
8. 国際金融とグローバル・エコノミー

[演習計画]

主としてテキストの順序に従って演習をすすめる。
あらかじめ各人に事前学習を割当て，発表を行なわせ それを中心に討議と指導を行なう。
適宜，時事的問題に関する資料を別途配布して集中討議を行なう。
また数回小テストも実施する予定。リポート提出も2～3回予定している。

[成績評価の方法]

出席状況，演習での課題（リポート，発表）に対する取り組み，および期末筆記試験の成績によって判定する。
1/3以上欠席した者は受験資格を自動的に喪失する。

[参考文献]

[教科書]

中谷巌著『痛快！経済学』集英社インターナショナル
¥1700＋税

＜００Ｅ生対象＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
基礎演習	14	通期	4単位	前田治郎

[演習概要・学習目標]

この演習では、各自が設定したテーマを一年間追い続けてもらいます。それを通じて、資料の探索、収集、整理、論点の報告・発表などの作業を体得することが、学習目標です。ちなみに、昨年度の参加者が取り上げたテーマには、地球温暖化、ダイオキシン、動植物などの環境問題、脳死と臓器移植、尊厳死、学級崩壊、いじめ、少年犯罪、裁判制度、介護保険、障害者問題、日韓関係、ノストラダムス、放射能などがありました。１年後に、自分の得意な分野で一家言持つまでになっていれば、目標達成です。

[演習計画]

1. 各人のテーマ設定
2. 資料収集の研修―図書館、インターネット
3. 書籍、新聞記事その他を素材とする教室での報告と討論（反復）
4. 最後にレポートの作成

[成績評価の方法]

出席などの平常評価と最後に作成するレポートを総合判断する。

[参考文献]

[教科書]

＜００Ｅ生対象＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
基礎演習	１５	通　期	４単位	前田徹生

［演習概要・学習目標］

基礎演習においては、大学で勉学するための基礎的な素養、討論、ノートの取り方、原稿の書き方、報告やレポートの書き方、文献検索・収集の仕方、専門書の読み方といったことを中心に進めていくこととする。また、できれば裁判所見学等の実習も可能であれば計画してみたいと思っている。

［演習計画］

１）ゼミ・ゼミ・ガイダンス
２）ディベート
３）ディベート
４）ディベート
５）ディベート
６）ディベート
７）ノートの取り方
８）ノートの取り方
９）研究テーマの見つけ方と文献収集の方法
１０）文献探索ガイダンス
１１）原稿の書き方（１）
１２）原稿の書き方（２）
１３）原稿の書き方（３）
１４）報告／討論
１５）報告／討論
１６）報告／討論
１７）報告／討論
１８）報告／討論
１９）報告／討論
２０）報告／ 討論

［成績評価の方法］

出席すること，報告を行うこと，レポートの提出。

［参考文献］

演習の中で必要に応じて提示する。

［教科書］

特に，なし.

＜００Ｅ生対象＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
基礎演習	１６	通　期	４単位	松尾　純

［演習概要・学習目標］

この「基礎演習」は、これから４年間経済学部に籍をおくことになったみなさんが基本的に身につけておくべき経済学的なものの見方・考え方・表現の仕方を、最も基礎的なレベルでトレーニングする場です。この目的、いいかえれば経済学部生の”行儀作法”のようなものを修得するために、本演習では２つのことを行います。

①指定したテキストを使用して経済学の基礎理論を、互いに疑問を出し合ってわいわいがやがや話し合いながら一つ一つ理解し解決しながら勉強していきます。具体的にはテキストを輪読方式（具体的にどうするかは授業のときに説明する）で読み進んでいきます。したがってこれは、みなさんの多くが履修登録するであろう経済学基礎理論Ｂの補習授業のようなものです。

②新聞や雑誌の（経済）記事の中から諸君が関心あるものを選んで報告してもらい、それについて率直な討論してもらいます。これは、日頃のさまざまな社会現象に対する経済学的な見方、考え方を養うためのものです。活発な議論を期待します。

［演習計画］

左記の①②を授業時間を前半と後半に分けて行います。前半では①を、後半では②を行いまます。

［成績評価の方法］

出席回数３分の２以上（単位取得の絶対必要条件）と、報告内容・討論への参加（寄与）などを総合判断して評価する。（厳しそうですが、実態は出席さえ或る程度こまめにしておけば、単位取得は自動的である、ということです。

［参考文献］

［教科書］

鶴田満彦編『入門経済学　〔新版〕』有斐閣新書、1990 年発行、900 円

＜００Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	１７	通　期	４単位	モグベル　ザファル

［演習概要・学習目標］

テーマ：アジア経済の展望

アジア通貨・経済危機は何だってのであろうか。そして、アジア経済は今後どのような道を進むのであろうか。この疑問に答えるべく、東アジア諸国を中心に 1997-98年の通貨・経済危機と、その以前の「東アジアの奇跡」と呼ばれた高度成長と繁栄の時代について考えて見ることとする。

本ゼミナールの目的は:

① 目を「東」に向けてアジア諸国に親しみを持つこと、
② 経済の基礎知識を深めること、
③ 経済開発のプロセスについて考えること、
④ 経済のグローバル化と相互依存について実感を持つこと、などとします。

［演習計画］

＜前期＞　アジア経済総論

① 地域の特性
② 文化・教育・人口
③ 経済成長の基礎的条件
④ 輸入代替から輸出志向型工業化戦略への転換
⑤ 東アジアの奇跡
⑥ 東アジアの「バブル経済」
⑦ 通貨・経済危機と東アジアの限界
⑧ アジアの復活に向けて

＜後期＞

後期はゼミナール参加者の報告を中心に授業を行います。各人、アジア諸国の中から一つの国を選び、その経済・社会・政治などについて報告を求めます。

［成績評価の方法］

出席・小試験・授業中の報告をベースに総合的に評価します。

［教科書］

渡辺　利夫（編）『アジア経済読本』

［参考文献］

渡辺利夫、足立文彦、文大学（著）『図説アジア経済』

＜００Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	１８	通 期	４単位	望　月　和　彦

［演習概要・学習目標］

「こうして今日の組織社会は、われわれに対し、まったく新しいことを学ぶべきことを求める。すなわち、組織を、目的意識と責任をもって利用することである。この責任とそこに伴う意思決定から逃げるならば、組織が主人となる。逆にこの責任を引き受けるならば、われわれが自由となり、主人となる。」（Ｐ・ドラッカー　『断絶の時代』）

そもそも学校というところは、生き方の定まらない人間たちが生き方を求めて集まってくるところと見ることができる。「学校なんて何の役に立つのか」と言いながら、ほとんどの若者は高校に行き、多くの人はさらに大学に進学する。なんのかのといっても、とりあえず学歴だけは押さえておこうというのである。つまり生き方がわからないものだから、学歴にすがってみるのである。てなわけで大学まで来てみたものの、世の中をどう渡っていけばいいかなんて誰も教えてくれるわけではない。でも最近では、企業すら学歴ではなく、しっかりした考えを持った人間、リーダーシップが取れる人材を求めている。でもそれはフツーの勉強じゃわかんない！さてどうする？とどのつまりは、自分で自分を鍛えなければならないのである。いや困った！ということで、皆さんにまず自分で物事を考える訓練をしてみようというのが、この基礎演習の目的である。この基礎演習では、論理的な思考の仕方を学ぶ。できるだけ具体的に、社会問題や倫理上の問題を徹底的に論理的に考えることによって、論理の構造と、その根底にある世界観や価値観を理解する。そこで自分なりのものの見方、考え方が身に付けば、このゼミは大成功ということになる。その結果、何事にも一家言をもつ「カワイクナイ」人間ができるかも知れないが…、まっ、いいか！？

［演習計画］

この基礎演習は、以下のようなやり方で行う。

◆テキストの輪読その一

テキスト：竹内靖雄　『経済倫理学のすすめ』　中公新書

このテキストを熟読玩味し、筆者の問いに答えることで、合理的思考を養う。

◆テキストの輪読その二

テキスト：屋山太郎　『官僚亡国論』　新潮文庫

とかく現実より理論が先行しがちなこの時代に、現実を理解することは容易なことではない。そこで官僚制のもたらす問題を考えることで、現実を把握するとともに、経済学を勉強する意義を理解してもらう。

◆新聞を読む

これは、社会科学の勉強に必要な社会に関する知識を豊かにするとともに、新聞やマスコミに対して批判的な見方を養う目的を持っている。

◆ディベート（討論）

これは、今日の日本社会がどんな問題を抱えているかを理解するとともに、自分の意見を論理的に組み立て、発表できる能力を身につけることを目的としている。

［成績評価の方法］

出席、発表、課題提出によって評価する。

［教科書］

竹内靖雄　『経済倫理学のすすめ』　中公新書
屋山太郎　『官僚亡国論』　新潮文庫

［参考文献］

文藝春秋編『日本の論点』シリーズ　文藝春秋社
鷲田小彌太『哲学がわかる事典』　日本実業出版社
鷲田小彌太『現代思想がわかる事典』　日本実業出版社
よみうりテレビ編　『紳助のサルでもわかるニュース』　実業之日本社
猪瀬直樹　『日本国の研究』　文藝春秋社
浅羽通明　『大学で何を学ぶか』　幻冬舎

＜００Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	１９	通期	4単位	矢根　真二

［演習概要・学習目標］

多人数の講義では片方向の知識の吸収力が問われるのに対し，少人数の演習ではたんに受動的に知識を吸収するだけでなく，むしろ自らの意見や質問を発して他人の情報収集過程に貢献する能力の養成こそ主目標となります。ですから，日頃から多様な問題に関心を抱き，自らの意見をまとめる習慣を身につけておき，それを演習の場で積極的に発言していくという姿勢が不可欠です。こうした能力は，専門演習に進むための必要条件であるだけでなく，卒業後のいかなる集団的な意思決定過程の中でも大切な能力です。

そこで，本演習の第１目標は，一般的なトピックス関するディベイト・ゲームなどを通じて，提案・質疑・反論・応答といった一連のコミュニケイションの仕方に慣れることです。第２の目標は，将来の専門演習に備えて，新聞や雑誌，経済学の入門レベルの文献を題材としたプレゼンテイション能力を高めることです。専門的な文献に進むためには，**経済学基礎理論Ａ**（Ｂではない）などで学習する経済分析の道具になじみ，簡単な数式モデル等にもアレルギーを感じなくなるようにしておくことが大切です。

いずれにせよ，過去にとらわれず，新しい自分を築いていくようなチャレンジ精神を持って，自らの人生を１つのゲームとみたてて経済分析に取り組んで下さい。

［演習計画］

（０）事前準備
計算機センターを訪ね，自分のe-mailアドレスを取得し，演習ガイド（**http://rio.andrew.ac.jp/~yane/lect/index.html**）を読み，ネット上からエントリーシートを送付しておいて下さい。

（１）PC操作復習
プレゼンの基礎としてのＰＣの使い方等の復習。

（２）M型ディベイト・ゲーム
テーマを決め，賛成派と反対派に別れて意見交換の練習を行う。

（３）ニュース・レポート
興味のある新聞記事・社説を解説する練習を行う。

（４）リーディングス
経済学の入門書を輪読する。レポーターは用意したレジュメをもとに解説し，フロワーは質疑を発することによって，理解を深める。

（５）ライティング８００
就職時の小論文・作文のように，８００字程度で自分の考えを明確に表現できるように練習する。

［成績評価の方法］

各プログラムにおける報告や質疑への貢献度を総合して評価します。

［教科書］

・ノース・他『経済学で現代社会を読む』日本経済新聞社

［参考文献］

・マンキュー『経済学Ⅰ　ミクロ篇』東洋経済新報社
・ベッカー『ベッカー教授の経済学ではこう考える～教育・結婚から税金・通貨問題まで』東洋経済新報社

＜００Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	２０	通　期	４単位	吉　見　研　次

［演習概要・学習目標］

この演習は、主に受講生が分担して下記テキストの紹介報告を行うという方式で運営される。内容的には、「法と経済学」と呼ばれる比較的新しい学問分野の基礎を理解することが、主たる学習目標となる。

演習形式の授業においては、口頭発表等、学生諸君自身の能動的な授業参加が不可欠である。小論文やレポートを書く作業も課すので、積極的に取り組んでもらいたい。

［演習計画］

毎回、数名の学生にテキストの内容を順次紹介報告してもらう。小論文の書き方を指導したうえで、実際に書く作業をしてもらうこともある。夏休み中または秋以降の課題として、複数の文献資料を読んだうえでレポートを書いてもらうこととしたい。後期の途中から、毎回、数名の学生に各自のレポートの概要を口頭で発表してもらう予定である。余裕があれば討論の時間等も設けたいと考えている。

［成績評価の方法］

出席状況、報告やレポートの内容等を総合的に判断して評価する。

［教科書］

小林秀之・神田秀樹『「法と経済学」入門』（弘文堂）

［参考文献］

授業時間中に適宜紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	２１	通　期	４単位	林　錫　璋

［演習概要・学習目標］

医療過誤事件に関する民事判例およびその解説を熟読する。
判例百選から抜粋し、現代の医療過誤諸問題を理解する基礎知識をつける。
参加者相互間で討論し、問題点と解決策を探る。

［演習計画］

＜前期＞　判例および解説を熟読し、理解を深める。
新聞または周辺から問題を探してくる。

＜後期＞　各自興味のある問題につき報告し、討論する。

［成績評価の方法］

報告及び討論参加、レポートなどにより総合評価。

［教科書］

唄孝一・宇都木伸・平林勝政（編）
別冊ジュリスト『医療過誤判例百選［第二版］』

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学基礎理論Ａ（旧経済学基礎講義）	01	通期	4単位	荒木英一

［講義概要・学習目標］

いくつかのテーマをとりあげて、経済学の専門用語と基本的な考え方を学習していく。テキストにはいくぶん高度な内容も含まれるが、経済白書や日々の経済記事を理解する為には、この種の入門書をマスターしておくことが近道だろう。

［講義計画］

前期：　国民所得統計
ＧＮＰの決定
資産市場
ＩＳ／ＬＭモデル

後期：　オープン・エコノミー
失業とインフレーション
消費・貯蓄と投資
景気循環と経済成長

［成績評価の方法］

授業中の小テストと出席点、学年末試験で総合評価する。

［教科書］

『（現代経済学入門）マクロ経済学』吉川洋 著、岩波書店

［参考文献］

適宜に指示する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学基礎理論Ａ（旧経済学基礎講義）	０２	通期	４単位	西川　憲二

［講義概要・学習目標］
日常生活の中で、私達は日々いろいろな選択し決定をしている。この際に「お金」が大きな決定要因になっていることが少なくない。このことは、私たちが「経済学」に取り込まれていることを意味している。言い換えると、経済学とは、我々の選択を経済的側面から解き明かしていく学問である。そればかりではなく、経済学は、企業や国家の選択や行動を説明する。そこで、経済学から、個人・企業・国家を眺めることによって、私たちの生活と社会がどのように機能してしるのか、これからの日本経済はどうなっいくのか考えてみたいと思う。

［講義計画］
日本経済と世界経済の現状
マクロ経済学
貿易と為替レート
ミクロ経済学

［成績評価の方法］
出席、小テスト。

［教科書］
なし

［参考文献］

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学基礎理論Ａ（旧経済学基礎講義）	０３	通期	４単位	望月和彦

［講義概要・学習目標］
「最初の近代天文学者は、ケプラーやガリレオではなく、16世紀のティコ・ブラーエである。初めて星の動きを体系的に観察し、記録した。だが彼は、膨大な事実を集めたが、解釈を間違っていた。偉大な観察者であり、才能ある分析者だったが、自らの観察によってその間違いが明らかになった理論に固執した。弟子のケプラーが新しい理論を発見するには、その後30年かかった。
新しい事実が古い間違った理論で説明されている限り、天体運行の予測は、知識も資料もなかった頃の、したがってきわめて控えめだった先人の予測と比べてさえ、当てにならないものにとどまっていた。間違った理解にもとづく正確性ほど、もっともらしく、そのくせ危険なものはない。」
（Ｐ・ドラッカー　『断絶の時代』）
このドラッカーの言葉は、そっくりそのまま現在の経済学に当てはまる。混迷を極める現在の日本経済・社会において、経済理論がいかなる貢献ができるのか、すべての経済学者が問われているといってよい。ややもすれば、現代の経済学は、国民の福祉のためではなく、政治家や官僚の利権拡大のための理論武装の用具になり果てようとしている。
本講はこれから経済学を学ぼうとする学生への近代経済学入門講義であるが、単に理論の紹介にとどまらず、今日の経済学の限界についても触れていきたいと思っている。政治家、官僚、マスコミにだまされないためにも経済学を習得することは是非必要である。講義計画として過年度のものを掲げているが、変更される可能性もあるということをご承知願いたい。今年度の講義計画は最初の講義時に配布する。

［講義計画］
【前期】
1．経済学とはどんな学問か
2．マクロ経済学とは
3．国民所得の意味
4．国民所得決定モデル
5．乗数理論
6．拡張された国民所得決定モデル
7．投資の理論～財市場の均衡～ＩＳ曲線
8．貨幣の理論～貨幣市場の均衡～ＬＭ曲線
9．財市場・貨幣市場の同時均衡　ＩＳ－ＬＭ分析

【後期】
10．総需要・総供給関数の導入　インフレと不況
11．財政政策・金融政策の有効性
12．ミクロ経済学とは
13．需要と供給の世界～市場均衡
14．需要と供給の世界の応用～課税と補助金
15．独占の理論
16．経済学の考え方

［成績評価の方法］
年４回の試験（特に最後の学年末試験を受けなければ単位は認定しない）およびレポート提出状況で決定される。

［教科書］
指定しない。その都度、プリントを配布する。

［参考文献］
伊藤元重　『入門経済学』　日本評論社
正村公宏　『経済学入門』　筑摩書房
Ｎ・Ｇ・マンキュー　足立他訳　『マクロ経済学Ｉ』東洋経済新報社
Ｊ・スティグリッツ　薮下ほか訳　『入門経済学』『マクロ経済学』『ミクロ経済学』　いずれも東洋経済新報社
岩田規久男　『経済学を学ぶ』　ちくま新書
金森久雄ほか編　『有斐閣　経済学事典』　第三版　有斐閣

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	氏　名
経済学基礎理論A（旧経済学基礎講義）	０４	通期	４単位	矢根　真二

［講義概要・学習目標］

経済活動はきわめて身近な現象です。自動販売機でウーロン茶を買うといった行為も，経済学の分析対象です。ウーロン茶の満足感が投入したコインの費用を上回るので，買っちゃうというわけです。本学に入学したのも講義をさぼるのも，デートに出かけるのもアルバイトに精を出すのも，同じように分析できます。

講義の基本的な目標は，現実の複雑で多様な現象を簡単な１つの見方で捉えていこうとする**現代経済学の基本的な考え方**を修得することです。実際，この抽象的な考え方を自在に操れるようになれば，ドラッグの密売や売春から環境汚染や少子化問題に至るまで，参考文献に掲げたノーベル賞経済学者のノース教授やベッカー教授のようにスイスイ理解できるようになるでしょう。また，バーンスタインの物語に出てくるように，保険や年金から株式先物やデリバティブといった金融商品がいかにこの考え方と関連しているかも分かるでしょう。

ただ，１つの見方でウーロン茶の販売量から株式のポートフォリオまで予測するわけですから，この抽象的な見方は数字を使ったモデルという形で表現されるのが普通です。もはや文系に数学は不要というのは時代遅れの考え方なのです。こうした分析道具はすべて講義で解説しますが，抽象的な考え方が苦手な人や数学アレルギーの方は参考文献などで頭を柔軟にしておいて下さい。新しい考え方を身につけてやろうという積極的な受講者を歓迎します。

［講義計画］

大きな書店に行けば分かるように，現代の経済理論はミクロ経済学（経済原論ＩＡ－１）とマクロ経済学（経済原論ＩＡ－２）に分けられ，公務員などの各種試験の中心試験項目になっています。そこで基礎理論では，ミクロ経済学とマクロ経済学に共通する経済学の基本的な考え方と分析道具を学習します。

現代経済学の基本的な考え方を大胆に要約すると，

①複雑で多様な経済現象を理解するために，簡単な１つの模型（モデル）で代用して考えることと，

②「１企業⇒産業全体⇒日本全体⇒世界全体」といった多様な問題を理解するのに，各段階でのモデルを組み合わせて考えることです。

そこで，基礎理論の重点は，

①あなたや私，つまり消費者や生産者といったすべての個人の行動を１つの模型で眺めるとどうなるか？，ということを学習し，

②こうした個人の行動の結果，ウーロン茶やアルバイト全体，つまり市場がどのように動くかということも１つの模型にして学習することです。

この２つのモデルは長い時間をかけて洗練されてきたエコノミストの最強の道具ですが，最近では軍拡競争や広告戦争のようなライバルとのかけひきを考えるモデルやギャンブルから保険に至る不確実な将来への対応を考えるモデルなど次々に新しい道具が開発されています。時間が許せば，こうした新しいファッションについても学んでいく予定です。

［成績評価の方法］

試験の合計点が６割以上を合格とする予定。

［教科書］

●講義で学習する主な概念の分かりやすい説明として
・マンキュー『経済学Ｉ　ミクロ篇』東洋経済新報社

［参考文献］

●学習する主な概念を使ってドラッグや環境汚染などを分析した入門書として
・ノース・他『経済学で現代社会を読む』日本経済新聞社

●同じく結婚や教育といった身近な事例を分析した最近のコラム集として
・ベッカー『ベッカー教授の経済学ではこう考える～教育・結婚から税金通貨問題まで』東洋経済新報社

●古代から今日のデリバティブに関わる意思決定法の読みやすい物語として
・バーンスタイン『リスク』日本経済新聞社

●数学が苦手だったりアレルギーのある方へのやさしい入門書として
・ドウリング『例題で学ぶ：入門・経済数学』シーエービー出版

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学基礎理論Ｂ（旧経済学基礎講義）	０１	通　期	４単位	大　澤　　健

［講義概要・学習目標］

私たちが現在暮らしている社会は「市場経済」とか「資本主義社会」と言われています。そんな中で、私たちは「商品」、「貨幣」、「資本」という言葉を暮らしの中でよく耳にし、日常的な用語として使っています。それにも関わらず、その言葉の意味を改めて説明してみろと言われると結構難しいものです。まして、それらが相互にどのように関係しあい、どのように運動するのかとなるとますます難しい問題になります。この講義では、このような基本的な経済学用語の意味を改めて考えながら、現在の経済社会の基本的なメカニズムと、特徴を明らかにしていきたいと考えています。

［講義計画］

【前期】　１・商品－市場の意味、市場経済の特徴
　　２・貨幣－市場をつなぐ媒介者
　　貨幣の機能、通貨システム

【後期】　３・資本－資本とは何か
　　生産過程と資本主義
　　資本主義社会の諸特徴

［成績評価の方法］

原則として試験の点数によるが、いくつかの加点要素（レポート等）を設ける。詳しい内容については、講義の初回に説明する。

［教科書］

テキストは2000年中に出版される予定。後期に指示します。それまでは、講義ノートを十分に整えてください。

［参考文献］

カール・マルクス著『資本論』（新日本出版社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学基礎理論Ｂ（旧経済学基礎講義）	０２	通　期	４単位	松　尾　純

［講義概要・学習目標］

この講義は、資本主義市場経済の最も基礎的な仕組みと概念を理解してもらうことを目的とします。資本主義経済の基礎的仕組み・概念を理解するためには、これをたんに「経済的に」見るだけでは十分ではありません。この経済社会を成り立たせている政治的・社会的・制度的な諸側面をも含めむ全体を分析しなければなりません。そのため、本講義では、経済学の歴史（重商主義、重農主義、古典派経済学、限界革命によって成立した新古典派経済学、ケインズ経済学等）と経済の歴史を概観します。これらを概観する中で、資本主義経済の政治的・社会的・制度的な諸側面をも含む包括的理解の仕方を身につけることが可能になるように配慮しつつ講義を進めていきます。なお、本講義は、直接的にはマルクス経済学（経済原論ＩＢ）の基礎を解説することを目的としますが、上記講義内容から見て分かるように、その内容は、経済原論ＩＡの入門ないしは基礎理論ともなっています。

［講義計画］

１．経済学とは何か。なぜ経済学を学ぶのか。
２．経済史の概観。経済学の歴史の概観。
　１，重商主義
　２．重農主義
　３．アダム・スミスの経済学。
　４．Ｄ.リカードの経済学
　５．Ｊ・Ｓ・ミルの経済学
３，経済学の基礎理論
　６，限界革命と新古典派経済学
　７，ケインズ経済学
　８．マルクス経済学
　　１．商品と貨幣
　　２．資本と剰余価値
　　３．資本の蓄積

［成績評価の方法］

前期末と後期末の２回のテストを行う。成績評価は原則的にこれよって行なうが、成績不良者を救済するために、講義中に数回テストを行う予定。

［教科書］

テキストは指定しない。できるだけ出席してしっかりノートを取ること。

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学概論		通　期	４単位	伊　藤　正　純

［講義概要・学習目標］

この経済学概論は経済学史的視点からの経済学導入科目だという説明を受けて、この講義を引き受けた。だが、ケネーの経済表から数えても２００年を超える長い経済学の理論史をその画期だけを素描しても、おそらく皆さんには退屈であろう。そこで、社会科学としての経済学という視点から、前期では、ビデオを使って労働現場に起きている諸事象を紹介しながら、労働および社会認識についての理論を考える。後期では、ビデオを使って金融・信用・財政で起きている諸事象を紹介しながら、今日の市場経済のグローバル化が引き起こしている現実から経済学の諸理論を考える。前期・後期を通じて、現実の経済を知ることによって、経済学に対する興味を喚起させてほしい。

［講義計画］

＜前期＞①労働・技術革新、②階級・階層認識、③国民所得、再生産論

＜後期＞①銀行・信用制度・株式会社、②グローバル化のなかでの変化、③財政・国家、④レギュラシオン・アプローチからみた改革プラン

［成績評価の方法］

出欠は適宜、講義に対する短い感想文を書かせる形でとる。また前期にはレポート提出（約５０点）を、後期には試験を課す（約５０点）。

［教科書］

使用しない。プリントを配布し、それに基づいて講義する。

［参考文献］

①八木紀一郎・山田鋭夫他編『復権する市民社会論』日本評論社
②金子勝『反グローバリズム』岩波書店
その他、適宜紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
現代経済概説		通　期	4 単位	鈴　木　健

[講義概要・学習目標]

本講義の目標は、日々報じられる世界と日本の政治・経済現象に関わるニュースに接して、その全体的な脈絡に「関心」を向けられる程度に受講生の政治・経済的な「知識」の水準を高めることにある。

とりあげるテーマは多岐にわたるが、現代の政治・経済現象の意味を理解するうえで有効と思われる最新のテーマを中心にとりあげ、解説的に講義を進めることにする。日々生じる政治・経済現象は密接につながっており、グローバライゼーションの進展とともに、ますますそのつながりを緊密にしている。切り離しがたく結びつく政治・経済現象をできるかぎり体系的にとらえられるように配慮しながら、問題をとりあげることにする。なお、受講生は新聞を毎日よく読んでおくことが望ましい。

[成績評価の方法]

・年数回提出してもらうレポートの提出回数とレポートの内容によって判定する。

[教科書]

・テーマ毎にレジュメを用意する。
・受講生は新聞をよく読むこと。

[講義計画]

以下に記載するのは、本年度とりあげる予定のテーマであって、確定したものではありません。重要な政治・経済現象が発生するとき、随時それらをとりあげて解説的に講義することになるからです。

・第一回、年間講義計画の概要、
・第二回以降に取り上げるテーマ、
・グローバル・エコノミーと大競争
・世界経済に占めるアメリカ経済の位置、
・国民経済からトランスナショナル経済へ
・アメリカ経済の現状
・アジア経済の現状①
・ユーロ経済について①
・日本的経済システム①
・日本的経済システムの行き詰まり
・バブルの膨張と破綻①
・産業再編とM＆A
・金融恐慌と日本版ビッグバン②
・金融再編②
・その他、
・グローバライゼーションとカジノ資本主義
・国際的な協議機関の役割
・市場と国家、企業と国家・国民経済、
・アメリカ経済とM＆A
・アジア経済の現状②
・ユーロ経済について②
・日本的経済システム②
・政－官－財癒着の統治システム
・バブルの膨張と破綻②
・金融恐慌と日本版ビッグバン①
・金融再編①

・テーマ毎に、そのつど紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
一　般　経　済　史	01	通　年	4単位	梅　本　哲　世

[講義概要・学習目標]

ソ連・東欧などのいわゆる「社会主義国」の崩壊によって、あたかも「資本主義」の優位性が実証されたかのように論じる見解も多い。しかし、資本主義は、環境破壊、核兵器の脅威、民族紛争、恐慌など、多くの問題を抱えている。このような時代であるからこそ、目を過去に向けて資本主義の生成と発展の過程を科学的に分析する必要があるだろう。

この講義では、まず、経済史を扱う場合に必要な基本概念を説明し、その後に、前資本主義的な生産様式の発展過程を検討する。さらに、資本主義がいかに封建制社会のなかから発生して発展したかを、移行期、産業資本主義、独占資本主義に分けて説明する。

この講義全体を通じて、資本主義のもつ独自な歴史的性格を明らかにしたい。過去を振り返ることによって、未来を見通す能力の一端を身につけるというのが、この講義の目標である。

[成績評価の方法]

随時小テストをおこない、学年末試験の成績とあわせて評価する。

[教科書]

テキストは使用しない。
レジュメ・資料を配付する。

[講義計画]

【前期】
1．経済史の基礎概念
2．人類の発生と原始共同体
3．古典古代的生産様式
4．封建的生産様式

【後期】
1．産業資本主義の経済
2．独占資本主義の経済

[参考文献]

授業中に適時指示する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
一般経済史	０２	通　　期	４単位	富　澤　修　身

[講義概要・学習目標]

長い混迷状態にある日本経済、通貨経済危機を経ても勢いを感じさせるアジア経済、情報技術革命を手がかりに成長を続けるアメリカ経済、そしてさまざまな実験を行い社会的リーダーシップを示す西欧諸国という具合に、現代経済はさまざまな国・地域から構成されている。世界と日本の２１世紀を考えるとき、来し方を振り返ることが必要となる。歴史は現代と未来のあり方を構想する際の手がかりを与えてくれるからである。

講義では、イギリス、アメリカ、日本の歴史を素材にして、１８世紀の経済史、１９世紀の経済史、２０世紀の経済史について論じる。

[講義計画]

Ⅰ　はじめに
Ⅱ　産業革命
　1　イギリス産業革命
　2　後発国・地域の工業化
Ⅲ　１８世紀の経済史
　1　問屋制経営
　2　協業
　3　マニュファクチュア
Ⅳ　１９世紀の経済史
　1　機械大工業
　2　鉄道経営
Ⅴ　２０世紀の経済史
　1　大企業の登場
　2　１９３０年代ニューディール期
　3　現代日本経済とリストラ

[成績評価の方法]

定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。

[教科書]

富澤修身著『アメリカ南部の工業化』（創風社）

[参考文献]

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学のための数学入門		通　　期	４単位	安　藤　洋　美

[講義概要・学習目標]

１９世紀の偉大な物理学者ギッブスは「数学もまた言語なり」と述べた。この言葉は２０世紀の経済学者サミュエルソンが、その著『経済分析の基礎』の巻頭に書き付けた。このことからも分かるように、数学は書き言葉だけの一種の言語である。だから、どんな科学でも、それが取り扱う研究対象を精密に表現しようとすると、日常言語もさることながら、数学言語の方が簡潔に表現できて、便利なことが多い。この講義では、経済学の学習でよく用いられる数学的手法のうち、極めて基本的なものを中心に紹介したい。内容は主として微積分と線形代数に関するものになる。言語の習得にはある程度の忍耐と努力が必要であるように、数学の学習も努力と忍耐が必要である。出席常ならざれば、すぐさま理解の範疇外に落ちることは明白である。教科書にある練習問題も自学自習して理解を深めてほしい。

[講義計画]

＜前期＞（微分積分）微分の基礎、関数の極大・極小、初等函数の微分、偏微分とその応用、不定積分、定積分、積分の応用、簡単な微分方程式。

＜後期＞（線形代数）ベクトルと行列、１次変換の表現、行列の基本変形、逆行列と連立方程式、行列式、行列の階数と次元、固有値と固有ベクトル、産業連関分析

[成績評価の方法]

期末試験による。

[教科書]

矢野健太郎・田代嘉弘『社会科学者のための基礎数学』（裳華房）

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学		通　期	4単位	清　水　夏　樹

[講義概要・学習目標]

【講義概要・学習目標】
集団、組織、ネットワーク、地域社会、福祉文化といった基礎概念をまなぶことから始め、社会学的なものの見方・とらえ方とはどういうことかを理解できるよう概説する。とくに、「共同体」から「協同体」へ、また、「ハード」から「ソフト」へ、という情報化社会の動向を軸に、情報通信技術の高度化にともなう諸問題をとりあげ、現代社会の光と影－健康面と病理面－を照射してみたい。日常的な話題やトピックスに眼を向けつつも、現代社会を生み出した歴史性とアイデンティティの準拠基盤を問う姿勢を忘れずに学んでほしい。

[講義計画]

〈前期〉社会的自我の発達　言葉とコミュニケーション、役割と組織　集団行動とゲームの相互性　文化と行動様式、共同体社会と集合表象 準拠集団の準拠性レベル

〈後期〉階級と階層、宗教と経済社会、中層階級と市民社会　近代化とポスト工業社会　情報ネットワーク化と文化的協同体、消費社会と新しい集団準拠性
社会関係と演技性　メディア、メッセージ、記号、社会機能とシステム

[成績評価の方法]
年度末試験（簡易テスト、および同レポートを適時参照する）

[教科書]
授業中に指示する

[参考文献]
その都度紹介する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経　営　学		通　期	4単位	道　明　義　弘

[講義概要・学習目標]
この講義では、経営学の基本的な考え方について理解し、現実に起こっている状況についての解釈を各自ができるようになることを目的としている。そのために、「経営の行動」について、下記の教科書に添って解説するだけではなく、理解を促進するために、多様な資料を提供・利用し、また、パソコンを用いて、証券取引所に上場している会社について、各種のデータを処理することによって、実際の状況をできるだけ具体的に考えることができるような講義を行っていく予定である。単なる教科書の講読に終わることがないようにしたい。

[講義計画]
教科書の章を追って講義を進めていく。教科書の各章は、以下のような構成になっている。

第１章　経営発展と現代の経営
第２章　経営学と経営発展論
第３章　経営発展論の方法
第４章　経営発展の意義とその基礎過程
第５章　多角化
第６章　Ｍ＆Ａ（合併・買収）
第７章　集団化
第８章　企業形態の発展
第９章　トップ・マネジメント構造の発展
第１０章　戦略的マーケティング
第１１章　戦略的研究開発
第１２章　戦略的プロダクション
第１３章　戦略的ファイナンス
第１４章　組織変革とヒューマン・リソーシズ
第１５章　環境志向経営への主体的変革

この各章に添って、全体を説明する。そして、それぞれの章の内容について、理解を促進するために、できるだけ新しい情報を提供していくことによって、今の状況に直面する経営における諸問題について考えることができるようにしていきたい。

[成績評価の方法]
講義の理解度をチェックする目的で講義中に実施する数度の小テスト、及び、「経営の行動」に関する最終レポートによって評価する。最終レポートの課題については、講義の終了時に提示する。

[教科書]
山本安次郎・加藤勝康編著『経営発展論』文眞堂、１９９７年

[参考文献]
山本安次郎・加藤勝康編著『経営学原論』文眞堂、１９８２年

他の参考文献については、講義の中で指示する。また、講義で利用する資料については、適宜講義の中で配布する予定である。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
法学	０１	通　期	４単位	前田　徹生

［講義概要・学習目標］

概 要

市民の社会生活に関連の深い法分野について、基礎的な知識を講述する。
私語・遅刻は厳禁。
なお、下記の教科書は毎授業時間に携帯すべき本という意味である。

目 標

1　社会生活における法の作用や役割について理解させる。
2　憲法、民法及び行政法の基礎を理解させる。
3　基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

［講義計画］

1　社会生活と法
2　憲法
　1）基本原理
　2）基本的人権
　3）地方自治
3　民法
　1）総則（成年後見を含む）
　2）物権
　3）契約
　4）不法行為
　5）親族
　6）相続
4　行政法
　1）行政行為及び行政手続
　2）行政不服審査
　3）行政訴訟
　4）情報公開
　5）地方行政組織

［成績評価の方法］

前期、後期の二度の試験を総合して評価する。

［教科書］

伊藤正己　『法学』〔第二版〕　有信堂

参考文献］

伊藤正己・加藤一郎　編　『現代法入門』〔第３版補訂版〕　有斐閣
中谷実　編　『ハイブリッド憲法』　頸草書房
芦部信喜　『憲法』　岩波書店
谷口知平・甲斐道太郎　編　『現代民法入門』〔新版〕　法律文化社

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
法学	０２	通期	４単位	寺田　友子

［講義概要・学習目標］

学習目標　　刑事手続を素材に日本国憲法の人権保障・違憲法令審査制度について理解を深める。

講義概要　　日本国憲法は、明治憲法下の人権侵害を反省して詳細な人権保障条項を規定した。前期は、日本国憲法制定史をも踏まえて、国家の国民に対する権力行使である刑罰権の発動にかかわる罪刑法定主義を理解する。その前提として、刑罰の意義及び種類並びに犯罪成立要件についての基礎的知識をも体得する。それまでの基本的知識を整理し、理解を深めるために安楽死判決を素材にする。その判決を学ぶ過程で、法源の機能、法の適用過程等について理解する。次に、日本国憲法の最高法規性を学んだ上で、死刑の合憲判決、尊属殺人罪違憲判決を詳細に検討する。その過程で家族法に関する基本的概念を学ぶ。又、平等原則についても理解を得たうえで、非嫡出子の相続分規定の合憲判決も検討する。 その過程で違憲法令審査制度の機能について理解する。
後期は、法源の種類（憲法の意義、条約、法律、命令、条例、最高裁判所規則、議院規則 ）、形式的効力等法の効力等についても憲法訴訟（砂川事件、奈良県ため池条例事件、徳島県公安条例事件、ＮＨＫ放送公布事件、官報公布事件等々）を素材に理解を深める。その際、三権分立等国家の機構についても理解する。これらの判決を学ぶ過程で、人権保障の内容（刑事　補償と国家賠償）と憲法の最高法規性、違憲法令審査制度についても理解を深める。

［講義計画］

前期　§1　刑罰の種類
　　2　犯罪成立要件
　　3　法の適用過程
　　4　安楽死訴訟
　　5　憲法の最高法規性と違憲法令審査制度
　　6　死刑の合憲判決
　　7　尊属殺人罪と家族法の基礎概念
　　8　平等原則と尊属殺人罪違憲判決
後期　　9　法治国家と罪刑法定主義
　　10　命令概念と行政機構
　　11　全農林警職法事件と労働基本権
　　12　条例概念と大阪市売春防止条例
　　13　奈良県ため池条例事件と徳島条例事件
　　14　形式的効力の原則と条約の概念
　　15　法の時間的効力と公布をめぐる諸般決
　　16　同位の法間の効力関係と国家補償
　　17　損害賠償における特別法と一般法

［成績評価の方法］

基本的には、前期及び後期に行うテストで成績評価を行うが、レポート提出、出席、授業時間に行うテスト等評価に加味する場合がある。

［教科書］

芦部信喜他11名編『コンパクト六法　　平成１２年版』（岩波書店）

［参考文献］

中谷実編『ハイブリッド憲法』　1995年　勁草書房
渡辺洋三著『法とは何か』　岩波書店
渡辺洋三著『法を学ぶ』　岩波書店

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会科学入門		通　期	4単位	大　澤　　健

［講義概要・学習目標］
「社会科学」と言われても少しとっつきにくいかもしれませんが、要するに社会の中の様々な問題について考え、それを学問としてまとめたものが社旗科学です。
それゆえ、「社会科学」は「社会問題」の存在と密接に結びついています。そして、われわれが現在暮らしている社会は市場経済ですから、社会問題の多くは市場経済の問題として考えることができます。
この講義では、「社会科学」の入り口として様々な「社会問題」に触れてもらいたいと考えています。まずはビデオを見ながら問題の存在を知り、それがなぜ生じるのか、そして、どうしたら解決できるのか、を考えながら「社会科学」としてのものの考え方について知ってもらおうと思っています。

［講義計画］
講義の大半は実際にビデオを見てもらって、考えてもらうことに向けられます。その間に問題へアプローチしていくための考え方を講義していきます。
【前期】1・公害問題、環境問題
2・労働問題
3・市場経済のパワー
社会を「進歩」させるのもとしての市場経済

【後期】4・不況の発生、失業問題
5・戦争
6・商品経済と「国家」の役割
7・国家と民族問題

［成績評価の方法］
原則として試験の点数による。ただし、ビデオを見てもらった後に簡単なレポート（感想文）を提出してもらい、それを「加点」要素として評価します。まめにレポートを出しても良いですし、試験で勝負してもかまいません。

［教科書］
用いない。なるべくならば、講義にまめに出てノートを充実させることを心がけてほしい。

［参考文献］
講義の中で適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本近代史		通　期	4 単位	佐々木　和　子

［講義概要・学習目標］

明治維新以降の日本近代史の諸側面を、代表的な都市である大阪の歩みを縦軸に概観する。特に都市の生活環境の変化とそれに伴う諸問題の発生や行政の対応といった観点からとらえていく。大阪の郊外住宅地として発展した阪神間にも目をそそぐ。

［講義計画］

1、日本資本主義の発達と大阪
2、大阪の都市環境の変化
3、大阪市立衛生試験所と雑誌『家事と衛生』
4、郊外住宅地の形成と阪神間
以上の様な項目に留意しながら講義をおこなう。

［成績評価の方法］

定期試験の成績と平常成績とで総合的に評価する。

［教科書］

［参考文献］

『新修大阪市史』第7巻（1994年）
『大阪府の百年』（山川出版社、1991年）など

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論ＩＡ－１（ミクロ経済学）	０１	通　期	４単位	駿河　輝和

［講義概要・学習目標］

現代経済における市場の果たす役割を理解することと、現実経済分析に必要な価格理論の考え方を習得することを目的にしている。

［講義計画］

需要と供給、消費者行動、生産者行動、競争市場と効率性、独占寡占、市場の失敗など市場の働きについて講義する。

［成績評価の方法］

２回の試験

［教科書］

倉澤資成著『入門価格理論　第２版』日本評論社

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論ＩＡ－１（ミクロ経済学）	０２	通　期	４単位	牧　野　源　泉

［講義概要・学習目標］

この講義のねらいを一口で言えば、市場機構の機能とパフォーマンスを理解していただく、ということです。

そこでまず、個人の消費計画や企業の生産計画はどのように立てられるのか、また、価格は消費計画と生産計画の不整合をどのように調整するか、といった市場メカニズムの基本的な問題を説明します。続いて、市場メカニズムの評価に目を向け、広い意味での「市場の失敗」の問題に言及します。

多くを欲張るつもりはありませんが、近年注目されているゲーム理論、不完全情報や不確実性の経済学ではどのようなことを問題にしているかにも触れる予定です。

［講義計画］

１　需要と供給
２　消費者行動と需要曲線
３　労働供給の理論
４　費用構造と生産
５　市場均衡と資源配分
６　独占の理論
７　ゲームの理論
８　市場の失敗
９　不確実性とリスク
１０　不完全情報の経済学
１１　異時点間の意志決定の問題

［成績評価の方法］

講義中に時折行う小テストと学年度末試験とによって評点をつけます。

［教科書］

伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社

［参考文献］

ハル・バリアン（佐藤隆三監訳）『入門ミクロ経済学』勁草書房
西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店
倉澤資成『入門価格理論』日本評論社

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論ＩＡ－１（ミクロ経済学）	０３	通　期	４単位	三　邉　信　夫

［講義概要・学習目標］

本講義の目的は資本主義経済に特有な自由競争市場の基本的構造を解説することである。その基本となるのは「均衡」概念であるが、均衡は需要と供給の一致によって決まる。資本主義経済は種々な市場より形成されている。消費財を取扱う財貨市場、労働雇用を取扱う労働市場、投資水準を決める投資財市場、利子率を決定する貨幣市場、外国為替市場、さらには貯蓄、投資の均衡を問題とする国内均衡と輸出入額均衡を問題とする国際均衡等々、およびこれら種々な市場の相互関連について授業の中で説明する。すべての市場において、均衡は需要と供給の一致によって決まるというのが大原則である。しかし各市場によって、それに参加する個人または企業は異なれる目標をもち、その動機も異なる。この講義では、これら各市場の需要曲線と供給曲線が如何にして決定されるかを中心に説明し、これら各市場の相互関係について説明する。

［講義計画］

〈前期〉1. 財貨市場の均衡、効用関数と生産関数、部分均衡と一般均衡分析における需要関数と供給関数
2. 経済用語の概念規定、主要費用、利潤、消費、投資、所得
3. 総需要曲線と総供給曲線、雇用と国民所得
4. 国内均衡と国際均衡

〈後期〉5. 効用関数と貯蓄
6. 投資財市場の均衡
7. 貨幣市場の均衡
8. 財貨市場と貨幣市場
9. 外国為替市場の均衡

［成績評価の方法］

試験、出席、リポート

［教科書］

三邉信夫（著）『経済原論』（大阪市立大学経済学会）

［参考文献］

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論ＩＡ－２（マクロ経済学）	０１	通　期	４単位	伊代田　光　彦

［講義概要・学習目標］

近代経済学の立場からマクロ経済学の講義を行う。

経済成長というのはどういうことなのだろうか。国全体の所得はどのようにして決定されるのだろうか。失業はなぜ生じるのだろうか。景気変動はなぜ起こるのだろうか。内外価格差はなぜ存在するのだろうか。このような問題に答えるためには、経済全体の仕組みを明らかにし、解決の処方箋を与えることのできる理論が必要となる。このための基礎理論がマクロ経済学である。従ってマクロ経済理論というのは、いわば経済全体の大きな眺めを扱う経済理論の分野である。

もう少し具体的な内容は講義計画の中に列挙されている。講義においては、理論をできるだけ現実の問題に関連づけ、具体例を上げながらゆっくり進めていくつもりである。

［講義計画］

序論　１～４章
1　経済学とは何か
2　経済学の体系と接近法
3　経済学の系譜
4　経済秩序の基本的特徴

本論　１～８章（各章２～３回）
1　国民所得の概念
2　国民所得の決定とその応用
3　貨幣分析
4　国民所得の変動と総需要管理政策
5　物価変動
6　所得分配
7　国際貿易
8　マクロ経済学の展開

［成績評価の方法］

原則として年度末試験によって行う。

［教科書］

稲別正晴・伊代田光彦・植田政孝（共著）『新版現代経済学の基礎（全訂）』（法律文化社、1998年）

［参考文献］

サムエルソン（著）『経済学（第13版上）』（岩波書店、1992年）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論ＩA-2（マクロ経済学）	02	通期	4単位	森　誠

［講義概要・学習目標］

近代経済学のマクロ経済学を講義します。

まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介します。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。

近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思います。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも１年後にはずいぶん慣れているはずです。

講義では教科書の森担当の章を参考にします。この章はかなり進んだ内容も含んでいますが、講義では初歩から解説します。そして最終的には３節までの内容を理解することを目的とします。

［講義計画］

1、GDPと３面等価の原則
2、実質と名目
3、ISバランス－貿易黒字と貯蓄－
4、GDP決定論の基礎
5、均衡予算定理
6、IS曲線
7、LM曲線
8、財政政策と金融政策の効果
9、リカード命題
10、長期の最適化と財政政策の有効性

［成績評価の方法］

年度末試験

［教科書］

惣宇利紀男、服部容教編『２１世紀の経済政策』日本評論社

［参考文献］

・吉川洋『マクロ経済学』岩波
　ケインズ派の立場によるマクロ経済学
・浜田・安井『マクロ経済学の基礎』有斐閣
　問題形式（命題に対する解説）をとっているのでポイントを押さえる、あるいは、公務員試験対策には向いています。
・瀬岡吉彦『資本主義経済の理論』ミネルヴァ
　新古典派、ケインズ派の問題点の指摘とそれに対する著者の考えが展開されています。通説に疑問を感じたとき見てみるとよいでしょう。ただし難しい本です。

その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論　ＩＡ－２　（マクロ経済学）	０３	通期	４単位	矢根　真二

［講義概要・学習目標］

不況になると失業者が増え，減税や公共投資の必要性が叫ばれます。反対に，景気が良くなるにつれインフレや輸入の増加が起こったり，公定歩合の引き上げが囁かれたりします。なぜこんなことが起きるのかを解明し，適切な政策を探るのがマクロ経済学の目的です。

そもそも現代経済の見方は，**経済学基礎理論Ａ**（Ｂのマルクス経済学ではない）で学習したように，ミクロ経済学とマクロ経済学に分けられますが，双方共にその内容に関するグローバルスタンダードがあります。つまり，日本だけでなく欧米の新聞・雑誌の経済記事や白書などを理解するのに必要不可欠な知識となっているのです。公務員試験等の各種試験で，その基本的な概念や数値分析が出題されるのもそのためです。

そこで講義の主目標は，景気や金融・財政政策に関わる専門科目を履修するのに必要不可欠なマクロ経済学の基礎知識を提供することです。具体的な学習レベルは，講義で出題する練習問題の基本概念や数値分析を解けるようになると共に，新聞・雑誌の基本的な景気関連記事を理解できるようになることです。ですから，単位取得のためには，用語や概念を丸暗記するよりも，例題や練習問題を自分で解いてその考え方を身につけることの方が大切になるでしょう。

［講義計画］

Part1　マクロ経済学の考え方

基礎理論Ａやミクロ経済学で学習した市場の価格調整メカニスムは，マクロ経済学を学ぶ基礎です。日頃の新聞記事の背景である伝統的なケインズ経済学と，それに取って代わりつつある新しいマクロ経済学は，どうして誕生し，どのような点が違うのかを学習します。

Part2　消費と貯蓄　～関数

消費はどうして決まるのかという身近な問題を考えるのに関数という概念を導入します。関数のあり方次第で，減税が消費を刺激することもあれば，さほど影響しないこともあるということを学びます。

Part3　ケインジアン・クロス（４５度線モデル）～部分均衡分析

生産物市場だけで失業と財政政策の関係を考えるために，最も簡単な国民所得決定モデルを導入し，乗数効果などを学習します。

Part4　ケインズ政策（ＩＳ－ＬＭモデル）～一般均衡分析

生産物市場だけでなく貨幣市場も考慮したIS-LMモデルと金融政策・財政政策の機能を学習します。

Part5　現代マクロ経済学のトピックス

時間が許せば，新しいマクロ経済学のトピックスを学習します。

［成績評価の方法］

試験の合計点が６割以上を合格とする予定。試験後に解答例とスコアを各自に提示し，クレームの受付期間を設ける予定。

［教科書］

●講義で学習する主要な概念の分かりやすい説明として
・マンキュー『経済学　II　マクロ篇』東洋経済新報社

［参考文献］

●講義の例題や練習問題の数値計算を自分でゆっくり学習するには，
・辻正次・他『演習マクロ経済学』日本評論社
●中学で学習した簡単な連立方程式の解とグラフに関する知識が中心ですが，それでも数学が苦手だったりアレルギーのある方へのやさしい入門書として
・ドウリング『例題で学ぶ：入門・経済数学　［上］』シーエービー出版
●より詳細なアメリカのテキストとして
・スティグリッツ『マクロ経済学』東洋経済新報社
・マンキュー『マクロ経済学』東洋経済新報社
●新しいマクロ経済学の政策的含意を分かりやすくまとめたものとして
・岩本康志・他『経済政策とマクロ経済学』日本経済新聞社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論ＩＢ	０１	通期	４単位	大澤　健

［講義概要・学習目標］
「経済学基礎理論Ｂ」の講義をベースとして、さらに詳しく資本主義の基礎理論について講義をします。「基礎理論」では、商品、貨幣、資本とはどのようなものであるかを説明しましたが、「原論」ではその資本がさらにどのように社会全体を動かしていくかを見ます。
資本主義社会の根本的な原理は「利潤追求」にあるのですが、これが「生産」にどのような特徴を与えるのか、さらには不況がいかにして発生してくるのか、といった具体的な問題について考えてみましょう。

［講義計画］
［前期］１．資本主義の基本的特徴の再確認
商品とは、貨幣とは、資本とは
２．資本の蓄積過程
３．資本の循環
貨幣資本の循環、生産資本の循環、生産資本の循環
４．社会的総資本の再生産と流通

［後期］５．利子生み資本と信用制度
６．資本主義と不況

［成績評価の方法］
原則として試験の点数によって評価するが、若干の加点要素を考慮する。

［参考文献］
カール・マルクス「資本論」新日本出版社

［教科書］
教科書は2000年中に発行される予定。追って指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論ＩＢ	０２	通　期	４単位	松　尾　純

［講義概要・学習目標］

ソ連・東欧の「社会主義」の崩壊とその後の資本主義経済の「復活」、中国共産党が推進している「市場社会主義」建設。これらの事態は、そもそも社会主義とは何か、マルクスの考えていた社会主義とはどのような社会システムであったのかという問題を我々に投げかけているように思われる。他方、ソ連・東欧の「社会主義」の崩壊によって一旦「勝利」したと見られた資本主義もその行方は不透明であり、いま改めて資本主義社会とは何かということが問われている。本講義では、このような問題意識に立って、マルクス経済学の”再構築”を目指す。したがって、これまで教科書的に理解されてきたマルクス経済学の諸命題について根本的な再検討を加えつつ、講義を進めていくことにしたい。

［講義計画］

（前期）１．唯物史観とは何か。
２．労働疎外論とは何か。
３．『共産党宣言』には何が書かれているか。
４．マルクスの社会主義像とソ連・東欧の「社会主義」
（後期）１．経済学の対象と方法。
２．商品とは何か。
３．貨幣とは何か（本質と諸機能）
４．資本とは何か。
５．資本の生産過程
６．資本の蓄積と再生産
７．過剰人口論と資本過剰論

［成績評価の方法］

成績の評価は年度末に行う試験結果による。出席率は一切考慮しない。
出題形式は、語句説明５～６問と選択式論述問題１問である。

［参考文献］

参考書は授業時間中に適宜お知らせします。

［教科書］

講義概要の趣旨から分かるように、教科書は使用しない。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論Ⅱ		通　期	4単位	伊代田　光　彦

［講義概要・学習目標］

次の２つの問題に焦点をあてて講義を進める。

近年、所得・資産分配の格差に関する関心が高まっている。停滞経済の下で所得の伸びが期待できず、しかも高齢化社会が迫りくる状況の中では、強い関心だけでは済まされない問題である。分配に関する問題を理論、日本の実態、政策の３つの側面から総合的に明らかにする。

1970年代のスタグフレーションの中で、ケインズ経済学の有効性が疑問視されるようになり、マクロ経済理論は混迷の時代を迎えた。この中から誕生した反ケインズ派経済学について概説するとともに、その評価を行う。一方、その後誕生した新ケインズ派理論、新古典派の新しい理論展開についても時間の許すかぎり概説し、その評価を行う。

必要に応じて基礎的な理論の説明も行い、できる限りゆっくり講義を進めていく。板書により分かり易い講義を行うつもりであるが、受講は二回生以上が望ましい。

［講義計画］

Ⅰ　所得分配（理論、実態および政策）

1　はじめに
2　所得分配の基礎理論（４回）
3　所得分配率
4　人的分配の分析概念（２回）
5　所得・資産分配の実態（３回）
6　分配に関する政策の現状と問題点

Ⅱ　マクロ経済学の潮流

1　ケインズ経済学（４回）
　国民所得の決定とその応用、貨幣分析、ケインズ政策
2　反ケインズ派経済学（４回）
　フリードマンの新貨幣数量説、合理的期待形成学派、供給重視の経済学
3　新ケインズ派理論（２回）
4　新古典派リアル・ビジネスサイクル理論（２回）
5　おわりに（マクロ経済学の展望）

［成績評価の方法］

原則として年度末試験によって行う。

［教科書］

稲別正晴・伊代田光彦・植田政孝（共著）『新版現代経済学の基礎（全訂）』（法律文化社、1998年）

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学史Ⅰ （旧経済学史）		後期集中	4単位	熊谷　次郎

［講義概要・学習目標］

後期集中講義（２０００年１０月から２００１年１月まで）なので、週２回の講義となる。そのつもりで履修してほしい。

経済的な営みは人類の歴史そのものといってもよいだろう。そして多少とも自覚的な経済分析も古代のギリシャや中国で始められていた。しかし、近代的な経済思考（経済活動にはそれ固有の法則性があるという認識）は、１６世紀から１７世紀にかけての地理上の発見、商業革命、国民国家の抬頭、科学革命、資本主義「世界システム」の形成などを背景に形成された。

この講義では、まずこうした歴史的背景のなか、近世から近代にかけて、諸国家が共通して採用した重商主義政策の思想と政策について説明する。重商主義時代は、経済学の「星雲時代」とも言われており、その混沌のなかに経済学の面白さがある。

ついで重商主義を批判して登場してきた、アダム・スミスにはじまる古典派経済学を取り上げる。最後に古典派批判者の群像を素描する。

［講義計画］

講義は以下の順序で進められる。

1．経済学はいかなる時代にどのようにして生まれたか（１６世紀の商業革命、１７世紀の科学革命などと経済学の生成過程）
2．重商主義の思想と政策（１７世紀初頭から１８世紀中葉にかけての貿易差額と貨幣を重視する思想と政策の展開）
3．重商主義から古典派経済学へ（１８世紀中葉から後半に登場する独創的な経済学者たちの思想学説）
4．古典派経済学の諸相（１８世紀後半から１９世紀中葉までの経済学の範型をつくりだした思想と学説）
5．古典派経済学批判の群像（１９世紀中葉から１９世紀末までの社会主義、歴史主義、国民主義、限界分析などの立場に立つ古典派批判者たちの概観）

［成績評価の方法］

基本的に期末試験の成績をもってする。

［教科書］

田中敏弘編著『経済学史』八千代出版、１９９７年

［参考文献］

＊小林昇『経済学の形成時代』未来社（『小林昇経済学史著作集』に未来社収録）。
＊ 内田義彦『経済学の生誕』未来社（『内田義彦著作集』、岩波書店所収）
＊ フィリス・ディーン著／中谷俊博・家本博一・橋本昭一訳『経済認識の歩み』名古屋大学出版会。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学史Ⅱ（旧経済学特講－経済学史Ⅱ）		通　期	４単位	服部　容教

［講義概要・学習目標］

近代経済学の歴史を、イギリスを中心に展望することが本年度の目標である。近代経済学は、いわゆる「限界革命」をもって始まると言われている。イギリスではジェヴォンズのThe Theory of Political Economy(1871)が出発点となる。その後、マーシャルによって一層発展され、ケンブリッジ学派と言われる経済学の学派が形成されて行く。他方、１９１０年、２０年代になるととりわけ、景気循環理論に関心が集まり、イギリスはおろかヨーロッパ大陸、ドイツ、フランス、さらにアメリカの経済学者がこの理論に取り組むようになった。このような景気循環論の展開についてどのような理論が展開されたのかを概観する。
３０年代になるとこのような理論的背景と大恐慌を契機とする失業問題の解決に関心が寄せられ、ケインズの『一般理論』が発表されることによりいわゆる「ケインズ革命」と言われる経済学上の貢献がなされた。
このような経済学の発展過程を概観したい。
なお、受講者は、ミクロ、マクロ理論の初歩的な知識を持っていることが望ましいので平行して他の科目の履修をしてほしい。

［講義計画］

（１）限界革命、特にジェヴォンズの経済学
（２）マーシャルの経済学
（３）マーシャル以降の経済学、ケンブリッジ学派の経済学
（４）１９２０年代の景気循環理論
（５）ケインズ経済学
（６）ケインズ以降の経済学

［成績評価の方法］

学年末の試験、ないしはレポート、出席に基づいて総合的に評価する。

［参考文献］

授業中に適宜指示する。

［教科書］

教科書は採用しないが、授業中に適宜参考文献を指示する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済成長論（旧経済変動論）		通期	４単位	西川　憲二

［講義概要・学習目標］

欧諸国は近代工業を築き上げることによって、ここ数百年たらずで、その他世界を席巻してきた。今日では、各国が世界的な経済競争にさらされるようになった。
この講義では、西欧の経済発展の歴史と戦後日本の経済発展を検討する。そして、経済学がこれらの経済発展をどのようにとらえているかを、経済成長理論をもちいて説明する。結論として、経済成長の原動力である技術革新の重要性を論じる。

［講義計画］

経済成長とは
近代西欧とアメリカの経済発展
日本の高度成長と現状
経済成長理論
技術進歩の経済学

［成績評価の方法］

出席、レポート、年度末試験。

［参考文献］

なし。

［教科書］

なし。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
計量経済学		通期	4単位	荒木英一

［講義概要・学習目標］

経済理論を現実世界の経済データとつきあわせて、理論が主張する命題の正否を検証したり、経済予測に役立てようというのが、計量経済学の目的です。そのために、計量経済学では、統計学の知識を援用しながら、経済モデルを構成し、推計する作業を行います。経済モデルとは、エコノミストの頭のなかにある経済に関する知識を、誰の目にも見えるように、数式のかたちで表現したものといえるでしょう。推計とはモデルを現実のデータとつきあわせてみることです。試行錯誤を繰り返しながら経済モデルを改善して、検証や予測に役立てます。

この講義では、（受講者数にもよりますが）コンピュータを活用しながら、統計データ処理の基本からはじめて、経済学ではもっとも汎用的な実証分析手法である回帰分析を学んでいきます。

［講義計画］

1. 記述統計のいろいろ
2. 最小二乗法、決定係数
3. 統計的推定と検定の考え方
4. 回帰分析

詳細については、99年度講義のホームページ
http://rio.andrew.ac.jp/araki/gakubu99.html
を参照のこと。

［成績評価の方法］

何回かの小テストと学年末試験による。

［教科書］

プリントと教材ファイルを配布。

［参考文献］

適宜に指定する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国民経済計算論 （旧産業連関論）		通　期	4 単位	桂　昭政

［講義概要・学習目標］

国民経済計算の知識はマクロ経済学の勉強のみならず、経済の動き、特に日本経済の動きを理解するうえで不可欠と言える。本講義では国民経済計算のグローバルスタンダードとなっているＳＮＡの勉強のみならず、ＳＮＡを利用して日本経済の動向をも合わせて勉強していきたいとおもっている。なお、可能な限り理解を深めるためにデータのパソコン処理の実習を行っていきたいと考えている。

［講義計画］

1．ＳＮＡと日本の経済循環－生産、所得分配、蓄積の側面を中心に－
2．ＳＮＡと日本の経済循環－ストック（資産）の側面を中心に－
　さらに時間的余裕があれば３．サテライト勘定についてもふれる。

［成績評価の方法］

成績評価は年度末に行う試験結果を主とし、それにレポートを加味して判定する。

［教科書］

藤岡文七・渡辺源次郎『テキスト国民経済計算』（大蔵省印刷局）

［参考文献］

宮沢健一『日本の経済循環（第四版）』（春秋社）
大住荘四郎『入門ＳＮＡ－国民経済計算で読む日本経済』（日本評論社）
桂 昭政『福祉の国民経済計算－方法とシステム－』（法律文化社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本経済史	01	通　期	4単位	梅本哲世

［講義概要・学習目標］

「バブル」の崩壊や旧「社会主義体制」崩壊と共に、いま世界経済・日本経済は大きな転換点にある。このような時期であるからこそ、過去を振り返ってそこから学び、現在を批判的に見つつ未来を展望する作業が必要不可欠になるだろう。この講義では、幕末から第２次世界大戦終了までの日本経済の発展を概観し、極東の一島国がどのような過程を経て世界経済に組み込まれ「資本主義化」を進めていったのかを、多面的に考察したい。そのさい、第１に、戦前日本の「資本主義化」が進行した国際的および国内的条件を明らかにし、そのうえで日本資本主義の特質を分析し、第２に、戦後の日本資本主義とのつながりを重視し、戦前と戦後を比較対照しつつ、戦前の日本資本主義をもう一度振り返ってみたい。

歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。現在を見据えて共に歴史から学びたいと思う。

［講義計画］

【前期】
1. 経済史の基本概念
2. 幕末の経済と開港
3. 明治維新
4. 殖産興業と松方財政
5. 近代産業の発達－軽工業
6. 近代産業の発達－重工業

【後期】
1. 日清・日露戦争と日本経済
2. 第１次世界大戦と日本経済
3. １９２０年代
4. 昭和恐慌
5. 高橋財政
6. 戦時経済

［成績評価の方法］

随時小テストをおこない、学年末試験の成績とあわせて評価する。

［教科書］

三和良一著『概説日本経済史　近現代』（東京大学出版会）

［参考文献］

石井寛治著『日本経済史［第２版］』（東京大学出版会）
安藤良雄編『近代日本経済史要覧』（東京大学出版会）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本経済史	02	通　期	4単位	山田雄久

［講義概要・学習目標］

本講義では徳川～明治大正期における日本経済の成長史について検討する。日本の工業化は近代産業部門のみで推進されたのではなく、前工業化期の在来産業部門が工業化の中心的役割を担いながら進展したと考えられる。そこで徳川期における財政金融政策とプロト工業化について説明を行うとともに、明治期の企業勃興と農商務省の産業政策に関して理解を深める。

［講義計画］

1 幕藩体制下の生産・流通構造
2 幕府・諸藩の財政金融政策
3 徳川期の人口・物価史
4 幕末の経済発展
5 明治維新による経済制度改革
6 明治政府の財政金融政策
7 企業勃興と日清日露戦後経営

［成績評価の方法］

学年末試験で評価する。

［教科書］

特になし

［参考文献］

新保博『近代日本経済史』創文社
西川俊作『日本経済の成長史』東洋経済新報社
高村直助編『企業勃興』ミネルヴァ書房
高村直助編『日露戦後の日本経済』ミネルヴァ書房

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
西洋経済史		通　期	4単位	前　田　治　郎

［講義概要・学習目標］

１８世紀後半のイギリスに始まる産業革命は、人類史的観点からしても、巨大なインパクトをもった。それ以後、資本主義という経済システムが確立・発展し、その下で、人間の生産力は加速度を加えながら飛躍し今日に至る。とはいえ、この過程は常に平坦な道のりであったわけではない。すなわち、一方で、経済成長が順調に進展する時期と成長が鈍化し様々な対立が生じる時期が交替したし、また他方では、資本主義の世界的展開過程において、戦争に象徴されるような諸国民国家間の対立も伴わざるを得なかった。本講義では、イギリス産業革命から第１次大戦までを対象時期として、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカにおける各国資本主義の確立・展開過程を縦軸に、各国資本主義の関係の緊密化＝資本主義の世界体制の形成過程を横軸にとり、いわゆるパクス・ブリタニカの歴史的発展を考えたい。

［講義計画］

1．イギリス産業革命と各国の対応
2．イギリス資本主義の再編成
3．パクス・ブリタニカの生成と発展
4．大不況期と独占資本主義

［成績評価の方法］

後期試験と授業中に数回行う小テスト

［教科書］

［参考文献］

藤瀬浩司　（著）　『資本主義世界の成立』（ミネルヴァ書房）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経　済　政　策		通　期	4単位	津　田　直　則

［講義概要・学習目標］

経済政策論は政府の目標と手段の関係について議論する学問分野である。目標と手段の関係は抽象的レベルで分析することもあれば具体的レベルで分析することもある。また、制度や経済体制などの質的問題を議論することもあれば、国民所得や消費などを数量的に扱うこともある。これらを全般的に扱い、経済政策論の体系を学習する。

経済政策論は市場メカニズムの働きに任せることができない分野を政策活動で補うという形をとっているために、市場メカニズムとは何かということが分からないと経済政策論はなぜ必要なのかが分からない。市場メカニズムとは何かというのは経済理論の分野の問題であるから、経済原論ＩＡを履修していることが望ましい。

［講義計画］

前期
1．経済政策論の対象と課題
2．経済政策論の思想的課題
3．経済政策の目的と手段
4．秩序政策とその具体例
5．経済政策論のためのミクロ理論
後期
6．経済政策論のためのマクロ理論
7．マクロ計量経済モデル
8．財政政策
9．金融政策
10．産業組織政策

［成績評価の方法］

前期、後期のテスト

［教科書］

［参考文献］

丸谷冷史、家森信善編『経済政策講義』中央経済社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界経済事情		通　期	4 単位	モグベル　ザファル

[講義概要・学習目標]

世界経済における今日的トピックスについて分かりやすく解説する。講義の目的としては、受講生が新聞の国際経済記事を興味をもって読み、自分なりの解釈とオピニオンを持てるようになれば幸いである。

今日の世界経済では「対岸の火事」と悠長(ゆうちょう) なことは言っていられない。すべてが同時進行で展開し、ボーダレスに迫って来る。「GLOBAL」と「 LOCAL」の垣根がぼやけて行く中で世界の経済事情に関するより的確な情報と理解が問われていることは言うまでもない。このような見地に立ってこの講義では世界経済に関連したトピックスを取り上げて日本国内の問題に関連づけながら説明する。主に以下のようなテーマの中からタイムリーなトピックスを抽出して講義する。ただし、「世界経済入門」以降は順不同。

[講義計画]

1. 世界経済入門
   - 先進国・中進国・途上国とその他の分類の根拠と意味
   - 今日の世界経済のルールとその起源
   - GATT・WTO と世界貿易
   - IMF と国際金融体制
   - 国際収支の仕組みと日本の国際収支の最近の動向
2. 開発途上国の実態と戦略
3. NIEs 諸国の実態と戦略
4. アジア通貨危機の終焉?
5. ODA は世界を貧困から救えるか?
6. 経済摩擦はだれの責任?
7. 地域主義は『妙薬』なのか? EU, NAFTA, APEC を巡って
8. 先行き不透明なアメリカ経済
9. 石油と一次産品問題

[成績評価の方法]

成績評価は原則として年度末に行う試験結果による。

[教科書]

宮崎　勇　・　丸茂　明則（編）「世界経済読本」（東洋経済新報社）

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
現代資本主義論		通　期	4 単位	濵　田　博　男

[講義概要・学習目標]

米ソ冷戦体制崩壊後の１９９０年代、まだ、新しい世界の政治・経済秩序は確立されていない。旧社会主義圏の経済困難、民族・地域紛争の多発などのほか、先進資本主義国もまたそれぞれに困難な課題を抱えている。市場経済のグローバル化、メガコンペティションの時代のなかで 、政治・経済・社会のすべてが大きな変革の必要に迫られている、深刻な構造不況からの脱出に苦しんでいる日本は？独り好調を続けてきたアメリカは？通貨統合を果たしたヨーロッパは？そして日本と関係の深いアジアは？これからどうなるのか。

グローバルな地殻変動のなかで、２１世紀の世界と日本について考えるべき課題は多い。本講義では、日本経済を中心にしながら、現代資本主義の抱える諸問題について考えていきたい。

[講義計画]

講義で取り上げるテーマ（参考例）

１．冷戦終焉後の世界と日本
２．日本型資本主義とアメリカ型資本主義
３．バブル崩壊後の日本経済
４．銀行不良債権と金融システム不安
５．産業構造の変化と“産業空洞化”問題
６．“規制緩和”問題
７．日米関係－経済摩擦問題を中心に－
８．東アジア経済圏の抱える諸問題と日本の役割
９．２１世紀への課題
その他

[成績評価の方法]

原則として年度末試験の成績による。
（年度途中にレポートを課すこともある）

[教科書]

[参考文献]

レスター・Ｃ・サロー（著）／山岡洋一・仁平和夫（訳）『資本主義の未来』（ＴＢＳブリタニカ）

日本経済新聞社（編）『ゼミナール・日本経済入門』（日本経済新聞社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本経済論		通　期	4 単位	鈴　木　健

[講義概要・学習目標]

事実上アメリカの単独占領下で進められた戦後経済改革を起点とする戦後の日本経済の歴史は、「温存」された大企業体制の確立・展開・行き詰まりの歴史にほかならない。そこで本年度は、戦後の日本経済を大企業体制の再建・確立・展開・行き詰まり・再編の歴史を中心に概観することにする。

８０年代後半に膨張したバブル経済が９０年代に入って破綻して以降、日本経済はなお長期の不況下にあり、そこから脱出し得ていない。この現状は、大企業中心に組み立てられた戦後日本の経済システムが行き詰まり、大企業中心の経済システムを前提するかぎり、日本経済の再建に豊かな展望を見いだし得ないということを示している。大企業中心の経済システムの再建ではなく、国民の監視の行き届く経済システムへの転換こそ、日本経済再建のテーマであることがますます明瞭になっているように思われる。

前期には、戦後日本の大企業体制の仕組み、その再建・確立・展開の歴史を検討し、そのうえで後期には、大企業体制の行き詰まりと、行き詰まりを脱却すべく打ち出される大企業体制「再編」の方向について検討する。それは同時に、日本の経済システムを国民本位の経済システムに転換する展望について検討するということでもある。

[講義計画]

- 第１回、年間講義計画の概要
- 第２回、財閥解体①
- 第３回、財閥解体②
- 第４回、財閥と企業集団①
- 第５回、財閥と企業集団②
- 第６回、メーンバンク制の確立①
- 第７回、メーンバンク制の確立②
- 第８回、株式相互持ち合い①
- 第９回、株式相互持ち合い②
- 第10回、高度成長と大企業体制①
- 第11回、高度成長と大企業体制②
- 第12回、高度成長と大企業体制③
- 第13回、低成長と大企業体制①
- 第14回、低成長と大企業体制②
- 第15回、低成長と大企業体制③
- 第16回、安定成長と大企業体制①
- 第17回、安定成長と大企業体制②
- 第18回、バブルの膨張と破綻①
- 第19回、バブルの膨張と破綻②
- 第20回、バブルの膨張と破綻③
- 第21回、長期不況下の大企業体制①
- 第22回、長期不況下の大企業体制②
- 第23回、長期不況下の大企業体制③
- 第24回、長期不況下の大企業体制④
- 第25回、大企業体制の再編①
- 第26回、大企業体制の再編②

[成績評価の方法]

次の二つの評価の総合による。
- 第一、学年末試験の評価（６割配点）
- 第二、年４回行うレポート（４割配点）

[教科書]

- 鈴木健『メインバンクと企業集団』（ミネルヴァ書房、１９９８年）

[参考文献]

- 井村喜代子『日本経済論』（有斐閣）
- 橋川武郎『日本の企業集団』（有斐閣）
- 鈴木健『日本の企業集団』（大月書店、１９９３年）
- 中村孝俊『現代日本資本主義』（新日本出版社）
- 橋本寿郎編『日本経済の発展と企業集団』（東大出版会）
- 大槻久志『金融恐慌とビッグバン』（新日本出版社、１９９８年）
- 工藤晃『現代帝国主義研究』（新日本出版社、１９９８年）

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
生活経済論 （旧経済学特講－生活経済論）		通　期	4 単位	安　藤　洋　美

[講義概要・学習目標]

生活とは人間が生きて働くことを意味する言葉である。最も原始的な生活（現在では災害時の生活）から、高度に進化した快適な市民生活まで、多様な生活様式に対して、人類は何を必要とし、何を不要としているのか。生活では、まず何よりも衣食住の確保ということになるが、その過程でいろいろな組織や人、さらには人を取り巻く自然環境がかかわってくる。さらに最近では情報というものも無視できない。この講義では生活に関する諸問題を、経済学などの社会科学や、医学や数理科学などの自然科学、さらには行政関係者などの多方面にわたる専門家たちによる分担講義を聴くことによって、諸君一人一人の生活経済論を構築してほしい。できるだけ現在または将来に役立つ諸問題を幅広く取り上げていくつもりである。

[講義計画]

多人数の講師による分担授業なので、この講義要綱作成時には、講師の講義日時が確定しがたいので、講義内容の順序は変更されることがあるが、
１．生活を取り巻く環境，　２．生活と行政，３．生活と災害，４．生活と情報，
５．生活と健康・医療問題，６．生活防衛問題，７．生活向上の手段と方法，
８．生活と法律，９．潤いのある生活（教養と娯楽）
という点について講義が行われる。

[成績評価の方法]

期末試験による。

[教科書]

[参考文献]

経済企画庁『国民経済白書』（各年度分）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
財政学		通　期	4 単位	竹　原　憲　雄

[講義概要・学習目標]

いま日本の財政が注目されている。

ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）加盟国のなかでも、日本の財政赤字はトルコとともに最悪の状態にある。

その一方で、高齢化社会に向けた福祉や年金、景気対策のための公共投資や減税など財政の多様な機能が求められている。これは現代財政に共通するところであるが、それによって日本の財政は、我々の日常生活や民間の経済活動にいっそう深い関わりをもつようになっている。

もっとも、こうした日本の財政が、単なる関心の対象に終わってしまうならば、その正体はわからない。財政のしくみや経済活動との関係などについて、体系だった取り組みが必要になる。

それをふまえて、２０００年度予算を手がかりにしながら、直面する問題、国民生活への影響、そののぞましい姿など日本財政の実体に迫ってみようというのが、この講義のねらいである。

[講義計画]

1．日本財政の現状－２０００年度予算分析

ここで抽出された主要課題を、以下テキストの内容にそって検討する。

2．財政と財政論

3．予算制度

4．政府活動と経費構造

5．租税と租税制度

6．公債の理論と公債制度

7．財政投融資のしくみ

[成績評価の方法]

レポート及び学年末試験で総合評価する。

[参考文献]

講義のなかで紹介する。

[教科書]

和田　八束『財政学要説（改訂新版）』（文眞堂）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
金　融　論		通 期	4単位	木　村　二　郎

[講義概要・学習目標]

「金融大再編」「ゼロ金利政策」「ペイオフ解禁」などという言葉に代表されるように、私たちを取り巻く経済の中で、改めて金融に関わる出来事が注目されている。この講義は、金融の基本的な内容をまず説明した上で、今日の金融諸現象の意味するところは何かを明らかにする。

「お金」「信用」「銀行」「証券」「外国為替」など金融に関わるさまざまな言葉の意味するところは何か。金融は現代の経済においてどのような役割を果たすのか。このような金融に関わる基本的な内容をまず明らかにすることから始めて、次に、今日の日本経済における金融がいかに運営され、どのような制度再編の波にもまれているのかを明確にしていく。 そして、私たち生活する者にとって、この金融制度再編の持つ意味は何かを解明する予定である。

学習の目標としては、金融の基本的な概念と制度・政策を理解すること、および、新聞などを通じて得られる現状の金融諸現象の内実を理解する能力を身につけることである。

[講義計画]

テキストに沿って、「金融とは何か」「貨幣制度の変遷」「企業金融」「市中銀行」「中央銀行」「金融仲介機関とその他金融機関」「金融市場と金利」「外国為替市場と国際金融市場」「国際決済システムと円」「金融の自由化と国際化」の順に講義を進める。

[成績評価の方法]

小テストと学年末試験の総合評価。

[参考文献]

[教科書]

関根猪一郎・木村二郎・大島重衛・小西一雄著『金融論』桜井書店、2000年

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
統計学総論		通期	4単位	野田知彦

［講義概要・学習目標］

社会・経済現象を分析し、その背後にある規則性を導き出すための有効な方法の一つに統計的な方法がある。この講義では経済学などの社会科学で必要とされる統計学の基礎を学習し、様々なデータを分析するための初歩的な統計分析方法の取得を目標とする。具体的には、記述統計と推測統計の基本的な考え方や基礎的な手法を学ぶこととする。なお、統計学の理解には系統的な履修が必要となるので、授業を欠席すると講義の内容が理解できなくなり、単位の取得も困難になることは言うまでもない。

［講義計画］

授業中に指示する。

［成績評価の方法］

前、後期のテスト

［教科書］

「統計学入門」　森棟公夫　新世社

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済数学		通　期	4 単位	安　藤　洋　美

［講義概要・学習目標］

経済学に数学が使われたのはとても古く、１８世紀のダニエル・ベルヌイに溯る。それ以後、１９世紀の中頃、クールノーによって『富の理論の数学的原理に関する研究』が出版されて以来、急速に経済学の諸概念を数学的に表現することが市民権を得た。この講義では、経済学の内容のいくつかを、日常言語でなく、数式で簡潔に表現すること；経済現象のモデルの表現と解析の手段として、数学を利用することを理解させたい。もっと端的に言えば、条件付き極値問題を説くことを主眼点において説明したい。教科書は使用しないので、よく講義を聴くこと。

［講義計画］

＜前期＞１変量の微分法（経済学に出てくるいろいろな関数とその限界量など）
　　多変量の微分法（生産の均衡，消費の均衡）
＜後期＞微分方程式（所得変動、成長理論など）
　　確率微分方程式（ブラウン運動と株価変動など）

［成績評価の方法］

前期と後期の最後の時間に試験をして評価する。

［教科書］

教科書は使用せず、プリントを配布する。

［参考文献］

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済統計		通　期	4 単位	桂　昭政

[講義概要・学習目標]

経済統計は、新聞紙上等でGDP、失業率、消費者物価指数等の経済指標が報告されるごとく事実認識手段として、また理論あるいは仮説の検証ないし実証手段として今日よく利用されている。本講義では日本経済の全体像を把握するうえで、あるいは日本経済の現状を理解するうえで肝要な、現代の国民所得統計であるSNA統計を中心に、個別のミクロ統計である産業統計、労働統計、物価統計等の特質ないし利用例を中心に講義をすすめていく。講義を通じて日本経済の現状の理解を深めるとともに、パソコンによる計算、グラフ作成等の実習を行い、日本経済の現状についての理解がよりいっそう深くなるようにしていきたいと考えている。

[講義計画]

1．国民所得統計、産業連関表、国富統計等のSNA統計の特質と利用
2．産業統計、労働統計（含人口統計）、家計統計、物価統計等の特質と利用

[成績評価の方法]

成績評価は年度末に行う試験結果を主とし、それにレポートを加味して判定する。

[教科書]

岩井・泉・良永（編著）『情報化社会の統計学（改訂版）』（ミネルヴァ書房）
田中尚美編『統計資料集２０００』（産業統計研究社）

[参考文献]

吉田忠・石原健一（編）『統計にみる日本経済』（世界思想社）
木下・土居・森（編）『統計ガイドブック　社会・経済（第２版）』（大月書店）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済情報処理論		通期	4単位	野田知彦

[講義概要・学習目標]

現代社会で生き抜いてゆくためには、コンピュータに関する知識は必要不可欠である。本講義では、表計算ソフトの使い方を初歩からマスターし、経済データの処理の方法をマスターするとともに情報処理の基礎知識を身につけることを目標している。コンピューターの使い方をマスターしながら、企業レベルのミクロデータと国民経済全体を表すマクロデータを用いて、日本経済の現状分析を進めたい。とりわけ、賃金、雇用、失業などの動きに注目したい。系統的な履修が必要となるので、授業を欠席すると講義の内容が理解できなくなり、単位の取得も困難になることは言うまでもない。

[講義計画]

授業中に指示する。

[成績評価の方法]
レポート、テスト

[教科書]

なし

[参考文献]